



ニチレイグループ
 社会環境報告書
 2008



株式会社ニチレイ

経営企画部(環境保全担当)

〒104-8402 東京都中央区築地六丁目19番20号 ニチレイ東銀座ビル
 TEL 03-3248-2232 FAX 03-3248-2129
 URL <http://www.nichirei.co.jp/corpo/env/index.html>



ニチレイは、チーム・マイナス6%に参加しています。



当社で使用している電気のうち、
 年間100万kWhを
 グリーン電力でまかっています。



この報告書の表紙は、国内の山林を保全するために切り出された間伐材を原料にした印刷用紙を使用しています。また表紙以外の本文ページは、国産材(間伐材)リブ10%を含むを70%使用した印刷用紙を使用しています。
 インクは「VOC(揮発性有機化合物)成分ゼロ」の「100%植物油のインク」を使用し、印刷は印刷工程で有害廃液を出さない「水なし印刷」で行っています。

NAME

株式会社ニチレイ



ミッションステートメント

ニチレイグループの企業経営理念

ミッション

くらしを見つめ、人々に心の満足を提供する

ニチレイグループは、人々のくらしに本当に役立つ商品やサービスを一所懸命に創り出し、健康でこころの豊かな生活の実現に貢献します。

ビジョン

ニチレイグループは、卓越した食品と物流のネットワークを備える「食のフロンティアカンパニー」として、お客様にご満足いただける優れた品質と価値ある商品・サービスを創造・提供し、広く好感と信頼を寄せられる企業として、社会とともに成長します。

発想と行動の原点

ひたすらお客様のために！

経営姿勢

- | | |
|-----------------------|------------------|
| 1. お客様第一、安全第一、品質第一を貫く | 5. 公正な競争に徹する |
| 2. 健全な利益を追求する | 6. 透明性の高い経営を推進する |
| 3. 付加価値を適正に配分する | 7. 資源と環境を大切に使う |
| 4. 法と社会の秩序を守る | 8. 世界を見据える |

ステークホルダーのために

お客様に

ニチレイグループは、究極のお客様である生活者の方々に、真に役立つ商品とサービスを開発し、提供し続けます。そして、お客様と当企業グループが、共に繁栄できることを願って、持続的な相互信頼関係を築きます。

ビジネスパートナーに

ニチレイグループは、ビジネスパートナーの方々に、イコールパートナーとして公正な姿勢で臨み、信頼関係を築き、共存共栄を目指して相互発展に努めます。

社会に

ニチレイグループは、地域社会に企業市民として参加し、事業活動を通じて社会の発展に貢献するとともに、ハンディキャップをもつ人々への支援や文化活動などへの参加と支援を継続的にしています。

株主・投資家に

ニチレイグループは、より収益性の高い事業を選定・遂行して資本効率を高め、企業価値の向上を実現します。また、株主・投資家の方々に適正な還元を行います。

従業員に

ニチレイグループは、従業員こそ企業発展の源であると考え、会社の仕事が従業員一人一人にとってやり甲斐のあるものであり、自己実現の場の一つとなることを願っています。同時に、従業員個人の尊厳と個性の発揮並びに個人生活の充実を尊重します。そのために、能力開発と能力発揮の機会の提供、能力と努力と成果に見合った処遇制度の実施、安全で風通し良く活性化された職場環境づくりを行います。また、性別・年齢・学歴・人種・宗教などに関するあらゆる差別をなくし、処遇の機会均等を実現します。

ニチレイグループブランドステートメント

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。

ニチレイは、品質へのあくなきこだわりと、培われた技術、新しいアイデア、グループトータルネットワークによって、新鮮で、健康なおいしさをお届けし、笑顔のあふれる食卓を創り出していきます。

編集方針

本報告書は、ニチレイグループのCSR活動を幅広いステークホルダーの皆様にご理解いただき、コミュニケーションを深めるために作成しています。

ニチレイグループではCSR活動を定義した「6つの責任」(→P8参照)に基づいた取り組みを行っており、本報告書ではこれらの取り組みごとに活動事例などを報告しています。その中で、「新たな顧客価値の創造」については事業会社別に掲載し、事業特性をご理解いただけるように努めました。

また、より多くのステークホルダーの皆様にご紹介するために、Webサイト(PDF版/HTML版)も制作しています。

ニチレイグループ社会環境報告書関連Webサイト

URL : <http://www.nichirei.co.jp/corpo/env/index.html>

HTML版/2008年8月頃公開予定

ご意見・ご感想を簡単に送信いただける仕組みを導入しています。冊子に掲載できなかった取り組み事例をWebサイトで紹介しています。

※公開まではPDFファイルのみの掲示になります。

対象期間

2007年4月1日～2008年3月31日の活動実績を中心に掲載しています。

対象範囲

ニチレイグループの国内事業所およびグループ会社(→P47参照)を対象範囲として記述しています。(上記と対象範囲が異なる場合、その旨を記載しています)

発行日

2008年6月(前回発行2007年6月)

※今回の発行で9回目となります。

作成部署・お問い合わせ先

株式会社ニチレイ 経営企画部(環境保全担当)

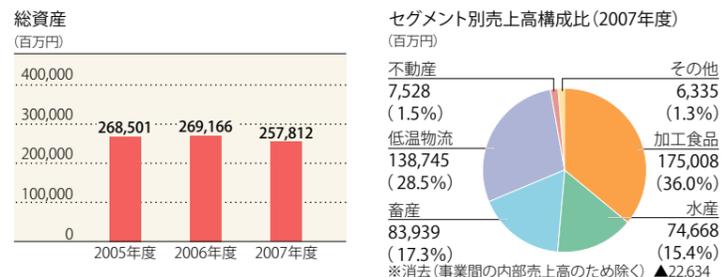
TEL.03-3248-2232 FAX.03-3248-2129

会社概要

(資本金および従業員数は2008年3月末日現在)

商号	株式会社ニチレイ	本社所在地	〒104-8402
創立	1945(昭和20)年12月1日		東京都中央区築地六丁目19番20号
資本金	30,307百万円		ニチレイ東銀座ビル
従業員数	6,054名(連結)	電話番号	03-3248-2101(代表)

業績の推移(連結)



CONTENTS

ニチレイグループの概要	4
トップメッセージ	6
ニチレイグループのCSR	8

新たな顧客価値の創造 10

- ニチレイフーズ
- ニチレイフレッシュ
- ニチレイロジグループ
- ニチレイバイオサイエンス
- ニチレイグループの安全・安心な商品の提供

働きがいの向上 20

- 働きがいの向上について
- 仕事と生活の両立支援
- 人財の雇用・登用
- 人財育成・キャリア開発
- 安全で快適な職場づくり

コンプライアンスの徹底 23

- 法令等遵守と企業倫理に則した行動の推進

コーポレートガバナンスの確立 24

- 業務執行・経営の監視の仕組み
- 内部統制システムの整備・強化

環境への配慮 26

- 事業活動と環境負荷
- ニチレイグループ 環境方針・長期目標
- 環境マネジメント
- 各事業会社の環境目標
- 廃棄物削減と再資源化
- 地球温暖化防止
- 環境に配慮した商品・サービスの提供
- そのほかの環境活動

ニチレイらしい社会貢献の推進 40

- 2007年度社会貢献の方針と活動内容
- 食や物流に関する教育
- 地域社会貢献
- スポーツへの支援
- 環境保全活動

ステークホルダーとのコミュニケーション 43

- お客様とのコミュニケーション
- 株主・投資家の皆様とのコミュニケーション
- お取引先様とのコミュニケーション

サステナブル経営格付け 46

グループ会社一覧 47

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。

ニチレイは、品質へのあくなきこだわりと、培われた技術、新しいアイデア、グループトータルネットワークによって、新鮮で、健康なおいしさをお届けし、笑顔のあふれる食卓を創り出していきます。

自然の恵みを活かして

株式会社ニチレイフーズ [加工食品事業]

高度化、多様化するお客様の食への期待や要望に対し、「安全・安心・健康」「簡便かつ高品質」「おいしいものを適正な価格で」をテーマに掲げてお応えします。素材へのこだわりと加工技術を活かした冷凍食品、アセロラ商品、缶詰・レトルト食品など、「食に感動をもたらす楽しい食生活」を提案。また、カロリーコントロール、少子高齢化、生活習慣病予防などの社会ニーズに対応したウェルネス食品を展開し、「健康価値」の創造に取り組んでいます。



アセロラドリンク

代表取締役社長：相馬 義比古 資本金：15,000百万円

自然の恵みを厳選して

株式会社ニチレイフレッシュ [水産・畜産事業]

国内はもとより世界各国に展開するグローバルな調達機能によって、「鮮度」「おいしさ」「安全」「安心」「健康」「環境にやさしい」をキーワードとする「こだわり素材」を中心に、水産品と畜産品の開発と調達・販売を進めています。



あわせて「持続可能性」を念頭に置き、資源や環境にも配慮。より高い「生活者価値の創出」を通じて、お客様の期待にお応えできるよう、新たな事業分野への挑戦や社会との調和にも積極的に取り組んでいます。



代表取締役社長：長谷川 寿 資本金：8,000百万円



グループの
企業価値向上のために
株式会社ニチレイ
[持株会社]

ニチレイグループ全体を統括する持株会社として、グループ全体の経営プランニング・モニタリング・資金調達・各事業会社の経営支援の機能を有し、企業価値最大化をめざした組織運営を推進しています。またグループが保有する土地などの資産を有効活用する不動産事業を運営しています。

代表取締役社長：村井 利彰
資本金：30,307百万円

新鮮をお届けするために

株式会社ニチレイロジグループ本社 [低温物流事業]

国内29社、海外9社からなる国内No.1の低温物流企業グループです。“全体最適”を追求した物流ソリューションを提供する(株)ロジスティクス・プランナー、保管・輸配送を一体化したサービスの提供、および小売業向け生鮮センター運営を行う(株)ロジスティクス・ネットワーク、実運送事業を展開する(株)NKTランス、そして冷蔵倉庫事業を担う地域保管会社(9社)に(株)ニチレイ・ロジスティクスエンジニアリングを加え、高度な物流情報システムインフラで結ばれた輸送、保管、流通加工、配送から物流センターの設計・施工・メンテナンスまでの一貫した高品質な物流サービスを提供。荷主企業様の物流最適化に貢献しています。



代表取締役社長：村井 利彰 資本金：20,000百万円

バイオテクノロジーを
追求して

株式会社ニチレイバイオサイエンス [バイオサイエンス事業]

免疫関連(免疫組織化学染色試薬、自動染色装置および診断キット)、細胞培養関連(培地、血清)、天然素材加工(化粧品・サプリメント原料)で培った各技術をベースに事業を展開。グループの素材調達力、細胞生物学・免疫学分野の経験を活かして、高品質の製品・サービスを提供します。医療、美容、健康、バイオなど、さまざまな分野・産業に貢献する技術指向型企業をめざしています。



代表取締役社長：荒 剛史 資本金：450百万円

グループの
業務ノウハウをベースに

株式会社ニチレイプロサーヴ [シェアードサービス事業]

事業支援系業務のノウハウを統合したアウトソーサー企業。人事・総務、経理、グループ法務、保険、人材派遣などの多様な専門サービスの提供により、グループ企業をはじめとして、お客様が経営資源をコア事業に集中し、企業価値を高めるための戦略的なアウトソースを支援します。



代表取締役社長：三田 勇太郎 資本金：450百万円



代表取締役会長

浦聖光人

代表取締役社長

村井利彰

広く好感と信頼を寄せられる企業をめざして

経営の重要課題としてCSR活動を推進

ニチレイにとっての「CSR元年」は、CSRプロジェクトを発足した2004年にさかのぼります。このプロジェクトのもと、2005年にはCSRの基本的な考え方を「ニチレイグループ 6つの責任」(①新たな顧客価値の創造 ②働きがいの向上 ③コンプライアンスの徹底 ④コーポレートガバナンスの確立 ⑤環境への配慮 ⑥ニチレイらしい社会貢献の推進)として定義し、2006年には持株会社にCSR本部を、各事業会社にはCSR推進事務局を新設し、グループ一体となってCSR活動を推進してきました。

これらの活動をより充実させていくために、2007年度を初年度とする「中期経営計画」においては、改めて「6つの責任」を重要な経営課題として位置づけ、ステークホルダーの期待に応え続けていく姿勢を明確にしています。

中期経営計画(2007年度～2009年度)における施策

- (1) 事業成長を促進する顧客価値創造への積極的な取り組み
- (2) 国内市場での強固な基盤を活かしたグローバル展開
- (3) 企業価値向上に資する事業提携やM&Aへの取り組み
- (4) ニチレイグループ品質保証体制の強化
- (5) ステークホルダーの信頼するグループガバナンスシステムの確立
- (6) CSR視点に基づく社会との協調
- (7) 働きがいのある組織風土の推進

“食”に関わる企業としての使命

2007年度は、食品業界を取りまく環境に大きな変化が生じた1年間だったといえます。「食の安全・安心」を揺さぶる事件が続くなか、冷凍食品全般に対して消費者の皆様方が不安を抱いたことは否めません。特に中国製冷凍餃子農薬混入事件がもたらした衝撃は見過ごすことはできません。事件の当事者ではなくても、生活者の“食”を担う企業集団として当社グループが安全管理に万全を期すことは当然の責務です。

ニチレイグループでは商品およびサービスの開発から顧客への提供にいたるすべてのプロセスにおいて、品質管理体制を強化することを常に心掛けてきました。中国産品に関しても、早くから農薬管理、製造委託先・原材料調達先の管理の徹底、検査要員の現地派遣に組み込み、2006年には(株)日清製粉グループ本社と合併で、安全性の分析評価を担う現地法人を中国に設立し、「食の安全・安心」の確保に努めています。加えて今期は、中国と台湾の9社で構成する「日冷蔬菜会」を設立し、中国産冷凍野菜について栽培や品質管理の基準統一を図るなど、継続的に安全管理体制の強化を図っています。各事業会社においても「食の安全・安心」に対するアプローチを意欲的に行っています。たとえば、ニチレイフーズでは商品の原材料・産地情報を商品パッケージに公開し、消費者が安心して食品を手にするよう努めています。また、ニチレイフレッシュにおいては岩手県で「純国産鶏種 純和鶏」を育成する「(株)ニチレイフレッシュファーム」を2007年5月に設立し、海外に種鶏を依存しているわが国の現状に一石を投じ、「食の安全・安心」をめざした取り組みを始めています。

2008年7月には洞爺湖サミットの開催を控え、地球温暖化の次期枠組みが注目され、環境問題への関心が世界的に高まっています。ニチレイグループは、このように広く社会の共通課題となっている事柄に対しても、『CSR視点に基づく社会との協調』という方針のもと、ニチレイグループとしての責任を自覚し、テーマ性をもって主体的に取り組んでいます。

環境問題に対しては、食品関連事業はもとより、国内最大規模の食品物流事業を担う事業会社を有する企業グループとして、二酸化炭素排出量削減や最終処分廃棄物量ゼロ化などを掲げた「2010年度環境目標」の達成を確実なものとするため、環境保全活動を推進しています。また、社会貢献活動においても生活者の“食”をあずかる企業グループとして、「食に関する教育、健康と運動」という観点から、事業活動に根ざした「ニチレイらしい社会貢献活動」に継続的に取り組んでいます。

真に信頼される企業をめざして

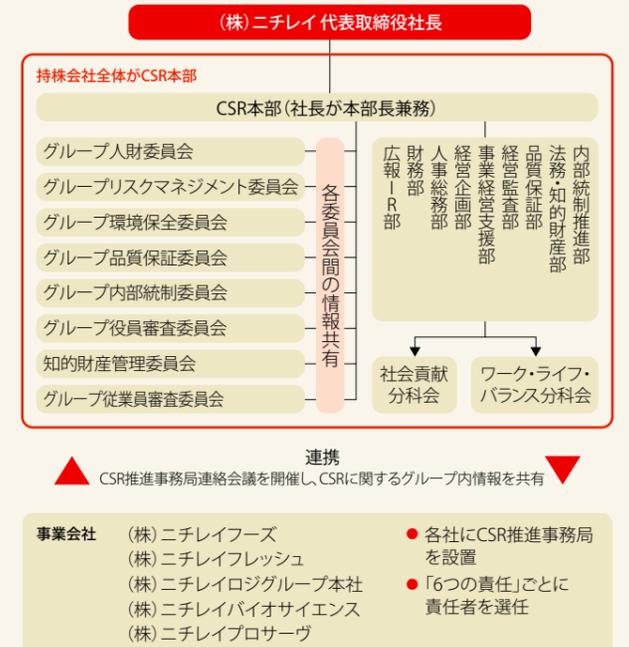
ニチレイグループでは、「顧客満足度＝従業員満足度」という考えのもとに、従業員の意識や考え方を知るための従業員満足度調査をスタートしました。

従業員の満足度と強い使命感をベースに、社会に貢献する企業風土の醸成に努めてこそ、初めて地に足のついたCSR活動が実現できる——なぜなら、これまで述べてきたさまざまなCSR活動を支えるのは、あくまでも一人ひとりの従業員であると考えからです。もし従業員が自分の会社や職場に不満を持っているようならば、お客様やステークホルダーの方々を満足させることなどできません。何よりも重要なのは、従業員一人ひとりの満足度を向上させながら、その意識の中に「CSRという視点」を確実に浸透させていくことです。

2008年4月から内部統制システムの運用が開始され、企業

の社会的責任がよりクローズアップされていますが、内部統制やコンプライアンス(法令等遵守)は、企業として当然取り組むべき課題であり、法律ができたから対応する性質のものではありません。「顧客満足度＝従業員満足度」という考えに基づき、真摯に活動をしているならば、社会的責任は自ずと果たされるはずで、このような信念のもと、今後とも地に足のついたCSR活動を推進していきます。ステークホルダーの皆様から広く好感と信頼を寄せられる企業として成長を続けてまいります。皆様の変わらぬご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます。

CSR推進体制



CSR活動の歩み



「6つの責任」に基づき、 グループ全体でCSRを推進しています。

ニチレイグループは、生活者の皆様やステークホルダーから信頼される存在であり続けるために、「6つの責任」を掲げ、その方針に基づきCSR活動を推進しています。

ニチレイグループ6つの責任

新たな顧客価値の創造

P10

新たな商品やサービスを創り出し、
生活者の課題解決をする

コーポレートガバナンスの確立

P24

透明で迅速な経営を行う

働きがいの向上

P20

従業員の働きがいを高める

環境への配慮

P26

地球環境の負荷を低減する

コンプライアンスの徹底

P23

法律や規制を守り、倫理性を高める

ニチレイらしい社会貢献の推進

P40

「食」「健康」「スポーツ」をキーワードとした
従業員参加型の社会貢献の推進

ステークホルダーとのコミュニケーション P43

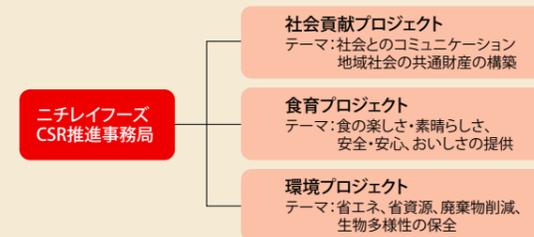
CSR推進に向けた取り組み

事業会社独自の推進体制を構築

ニチレイグループでは、グループ全体の取り組みを実現するために、事業会社ごとに独自の推進体制を構築しています。

たとえば、加工食品事業のニチレイフーズでは、通常業務内で6つの責任を推進しながら、特に「社会貢献」と「環境への配慮」の2つに「食育」を加えた、3つのプロジェクト(P)に取り組んでいます。それぞれがCSR推進事務局を中心として有機的に連携しながら、社会共志向の地域貢献(社会貢献P)、「食育」を通じた笑顔と会話の創造(食育P)、地球と社会への気配り・目配り(環境P)など、地域密着型のニチレイフーズらしいCSRへの取り組みを推進しています。

ニチレイフーズのCSR推進体制



CSRに関する社内啓発活動を実施

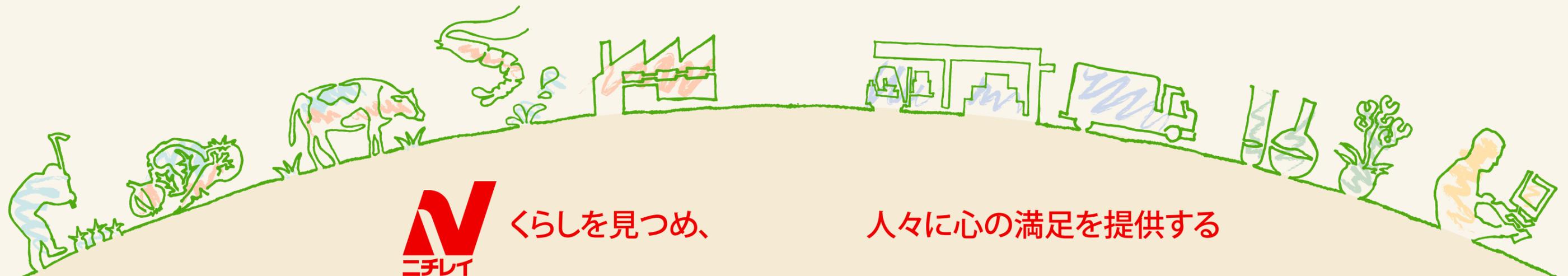
シェアードサービス事業のニチレイプロサーヴでは、総務・経理などの間接業務を担当する従業員にもニチレイグループが掲げる「6つの責任」を理解し意識してもらうため、CSRに関する社内啓発活動を実施しています。

その一環として、2007年9月から10月にかけて、ニチレイプロサーヴの本社地区において「社会環境報告書を読む会」を8回開催し、延べ121名が参加しました。

研修では、ニチレイグループのCSR活動の考え方、方針についての説明を通じて、CSR活動に関する理解の浸透を進めました。

特に、「6つの責任」について自由に記述する時間を設けるなど、参加者が主体的にニチレイグループのCSRの考え方を深く理解できるように工夫しました。

2008年度も同様の活動を展開し、「6つの責任」の浸透を図っていきます。



くらしを見つめ、

人々に心の満足を提供する

新たな顧客価値の創造

ニチレイフーズ

冷凍食品のパイオニアとしての責任



ニチレイフーズから、3つのお約束。

日本ではじめて冷凍食品をつくった企業の責任として、皆様に安心、かつ喜んで商品を楽しんでいただくために「3つのお約束」をいたします。

その1 品質管理のレベルをさらに高めます。

私たちニチレイフーズは、56年間にわたり国内の直営工場(2008年現在、6工場)において、お客様に安心をお届けするために必要な、独自の品質管理のルールや仕組みを作り上げてきました。この「ニチレイフーズ品質管理基準」による工場審査※に合格した工場だけが、ニチレイフーズの商品を生産しています。審査に合格したグループ工場・協力工場は国内のみならず海外にも広がっています。これからも、品質管理基準を常に見直し、その基準の遵守状況を厳しく監視し続けてまいります。



工場での品質管理実施の様子

※工場審査については、P17で、原材料管理についてはP18で、詳しく紹介しています。

その2 商品情報の公開を積極的に進めます。

「原材料の産地を教えてください。」こうしたお問い合わせを多くのお客様からいただいています。原材料の種類は多く、季節等の理由によっても原材料の産地が頻繁に変わります。しかしながら、お客様の安心につながるご要望にお応えするため、主要原材料の産地情報をこれまでより充実した内容に更新してホームページに公開しています。※1
また商品パッケージには新たに生産工場名と所在地を表示するとともに、商品パッケージに印刷されたQRコードにより店頭でも原材料の産地情報をご確認いただけるように進めています。※2

※1:ニチレイフーズホームページに掲載されている、家庭用調理冷凍食品55アイテムが対象です。
※2:2008年4月中旬より順次パッケージにQRコードの表示を開始しています。(※1の掲載アイテムが対象です)。
<http://www.nichireifoods.co.jp/csr/safety/materials.html>

VOICE

王冬梅
山東日冷食品有限公司 品質保証部長



私たちは日本の皆様に安心しておいしく食べていただけるように「ニチレイフーズ品質管理基準」に沿って仕事をしています。また、多くの従業員が基準を理解し、日本語の勉強をしながら愛情を込めて商品を作っています。

※日本語検定1級取得済み

携帯電話での情報提供



QRコード
※QRコードは携帯電話によってのみ確認できます。

VOICE

渡辺 千春
(株)ニチレイフーズ 商品本部 パッケージグループ



この春、お客様の安心につながるように、商品/パッケージにQRコードを印刷し、商品の生産工場・所在地、原材料・原産地が店頭でも簡単に確認していただけるようになりました。今後も多くの情報をすばやくわかりやすく正確にお伝えしてまいります。

その3 冷凍の魅力を活かした新しい商品をご提案します。

調理冷凍食品は、1952年にニチレイがはじめて販売を始めました。それから半世紀以上の時が過ぎ、家庭の食卓やお弁当、レストランや給食など食生活のあらゆる場面で欠かせないものになりました。私たちは冷凍食品のパイオニアとして、食品の鮮度を保存料を使わずに保つことができる冷凍食品の魅力を活かして、常に新しい商品作りに取り組んでいます。

蔵王山麓シリーズ

2007年秋に発売しました「蔵王山麓グラタン」「蔵王山麓ドリア」。宮城県白石市の直営工場で作られているこの商品は、ミルクの供給元である地元、(財)蔵王酪農センターとの共同開発商品です。素



材、産地にこだわり「少し価格が高くて、素材の素性をはっきりして美味しいものを!」というお客様の声にお応えするとともに、環境に配慮した包装設計で、発売以来お客様から高い支持をいただいています。

国産素材を使ったシリーズ

2008年6月発売の「国産素材を使ったシリーズ」は、お客様の「国産素材 国内生産」へのご要望にお応えした商品です。安定して使用できる国産の素材を選び、今回は日々のお弁当作りにもお使いいただけるよう、唐揚げ、春巻、コロッケなどの人気メニューに仕上げました。これらの商品は長年ご愛顧いただいている弊社信頼ブランド「お弁当にGood!シリーズ」と同品質基準・同工場にて生産している旨、パッケージの裏面にてご案内をしています。(素材の特性上、数量限定での発売です。)



また、2008年の秋には、その土地の素材を中心に、その土地で作ることにこだわった商品をご提案いたします。「生産工場の近隣でとれる素材」で、それぞれの素材にあった調理技術を盛り込み、作りたてを急速凍結。生産者の方々と工場働く従業員が想いをひとつにした商品です。

VOICE

大竹 泰
(株)ニチレイフーズ 研究開発部
企画・管理グループ マーケティングチームリーダー



冷凍食品は出来たてのおいしさや保存性、利便性というお客様にとって大切な価値を提供できる食品です。そこにニチレイフーズの卓越した品質管理、素材へのこだわりの姿勢を盛り込み、お客様に安心して召し上がっていただける商品をこれからもつくり続けていきたいと思っております。



ニチレイフレッシュファーム洋野農場



純国産鶏種『純和鶏』の生産・販売事業

“安全”で“安心”な鶏肉の安定供給のために。

私たちニチレイフレッシュは、安全で安心な食品を持続的に生活者へお届けするため、(株)ニチレイフレッシュファーム洋野農場において地球環境に配慮した素材づくりを追求してまいります。

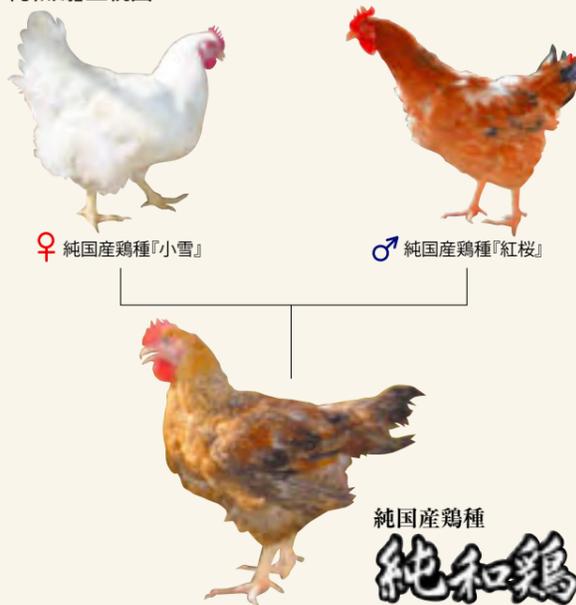
高まる純国産鶏種への期待

日本の鶏肉自給率は68.7%。日本の総カロリーベースでの自給率は39.7%ですから、この数字は比較的高いといえます。しかし、その国産鶏の親鳥(種鶏)やそのまた親鳥(原種鶏)の99%は海外からの輸入です。

世界的な鳥インフルエンザの影響で、イギリスやフランスなどからの種鶏、原種鶏の輸入が断発的に停止する一方で、「国産」というキーワードは食の安全・安心の原点としてイメージされ、国産志向はますます高まっています。

ニチレイフレッシュでは、2007年5月、(株)イシイと合併で(株)ニチレイフレッシュファームを岩手県洋野町に設立し、原種の段階からすべて日本国内で育種改良された、純国産鶏種「純和鶏(じゅんわけい)」の養鶏・販売事業を新規に立ち上げています。

「純和鶏」血統図



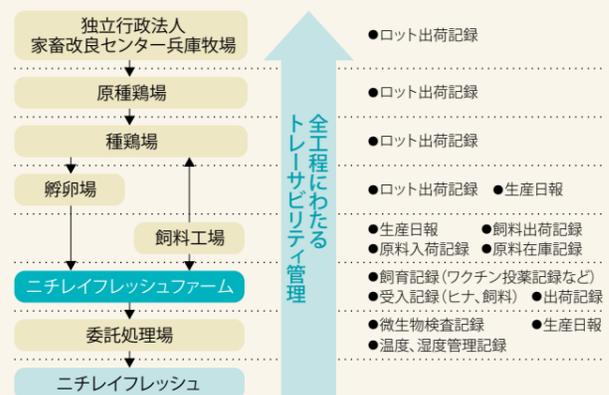
日本の鶏肉自給バランス向上と日本で育種改良された純国産種という「こだわりの血統」を新たな生活者の価値として追求してまいります。

商品から原種鶏まで安全・安心のトレーサビリティ

農林水産省所管の独立行政法人家畜改良センター兵庫牧場は、日本で唯一肉用鶏の血統を管理し、育種改良を行っており、100%国産種の基礎鶏、小雪(♀)と紅桜(♂)の血統から産まれた純国産鶏種を生み出しています。このこだわりの血統をニチレイフレッシュファーム洋野農場においてじっくりと時間をかけて育てた新しいブランド鶏が「純和鶏」です。ニチレイフレッシュは、純和鶏の血統の管理を行う「純国産鶏種たつの振興協議会」の一員として貴重な和の血統の維持管理にも取り組んでいます。

純和鶏はニチレイフレッシュの自営農場で飼育され、純和鶏の種鶏、原種鶏、さらにおおもとの基礎鶏の繁殖からロットで管理されています。農場ではヒナの受け入れから

「純和鶏」における品質管理システム



VOICE

田邊 弥

(株)ニチレイフレッシュ 畜産事業本部 畜産第一グループ マネジャー



純和鶏の生産・販売は日本の食糧自給率問題や食の安全を考えニチレイフレッシュが取り組んだ新たな事業です。日本生まれ、日本育ちというこだわりの血統。日本人の嗜好にあった味を今後も追求してまいります。

ワクチンなどの薬剤管理まで純和鶏養鶏マニュアルおよび管理基準によって厳正に管理されています。

また、純和鶏の養鶏においては地球環境に配慮し、病気治療のためにやむをえず使用する以外は、飼料に抗生物質合成抗菌剤を使用せず、小麦やハーブを配合したニチレイフレッシュこだわりの飼料でじっくり時間をかけて育てています。さらに、鶏舎内の温度・湿度などの管理は最新のコンピュータ養鶏管理システムで行い、農場内防疫管理の徹底のため部外者の立ち入りを禁止するなど、さまざまな面で品質管理を徹底しています。

環境にやさしく、持続可能な農場経営を追求

家畜排泄物の不適切な処理による地域環境の汚染が問題視されるなか、2004年に家畜排泄物処理法の施行によって家畜のふん尿等の野積みが禁止され、日本の畜産業にとって家畜のふん尿の取り扱いが大きな問題の一つです。

ニチレイフレッシュファームで発生する鶏ふんは、農場内に設置された最新鋭の高速鶏ふん処理プラントで有機肥料に生まれ変わり、大手肥料メーカーを通じて日本の農業用有機肥料として100%土壌に還元されています。

なお、このニチレイフレッシュファームで発生する純和鶏の鶏ふんのリサイクルの取り組みは、岩手県の推進する「岩手県産業地域ゼロエミッション推進事業」として申請し、2008年の補助事業として認定されています。

鶏ふん処理フロー





食品物流の新たな価値をめざして

国内最大の食品物流ネットワークを活かし、日本の「食」を支え続ける。

全国107カ所の物流拠点と一日約4,000台の輸配送能力を活かす提案力で、サプライチェーン全体にわたる「食品物流の変革」に取り組んでまいります。

お客様のニーズに学び、選ばれ続ける企業をめざして

国内最大の食品物流ネットワークを活かし、日本の「食」を支え続ける——私たちはこの信念のもと、お客様に、そして社会の期待に応えるべく、従業員一人ひとりがたゆまぬ努力を積み重ねてまいりました。

時代とともに変わる食生活を支え続けて六十余年、「物流」に対するお客様の多様なニーズに学び、そして育てられ、今のニチレイロジグループがあります。

国内シェアNo.1という優位性だけでなく、確かな物流専門知識と総合力、新しい発想やイノベーションで、お客様に「選ばれつづける企業」でありたいと考えています。

ブランドスローガン

選ばれつづける仕事。

ブランドステートメント

ニチレイロジグループは確かな専門知識と総合力に加え、社員一人ひとりの新しい発想と提案力をもってこれからの低温物流をリードし、日本の「食」を支え続けます。

低炭素化社会の実現に向けた物流共同化のさらなる推進

これまでニチレイロジグループは、冷凍食品・アイスクリームメーカーの共同配送事業や、量販店、外食・中食向け要冷品の物流センターの運営を通じ、さまざまな物流共同

化に取り組んできました。その一つひとつに「ニチレイロジグループならではの新しい発想」が組み込まれています。

環境負荷の軽減には物流で生じている無駄の排除が必須です。そのため、物流フローを見直し、「全体最適」の視点で新たなソリューションデザインを提案します。さらに、それを実行することによりコスト削減とCO₂の排出量削減を同時に実現してまいります。

3PL事業を展開するロジスティクス・プランナーでは、北海道・中部・四国・九州地区における冷凍食品メーカーの共配や生菓子共配などに取り組んできました。トレーラーとフェリー便を活用したモーダルシフトのさらなる展開により、幹線輸送の効率化と環境負荷軽減に向けた取り組みを推進します。

環境対応型ロジスティクスを実現するフェリーのモーダルシフト

過度なトラック輸送による課題

- 地球温暖化 ●大気汚染 ●交通渋滞・交通事故 ●運転手不足



フェリー便導入によるメリット

- CO₂の排出量を削減 ●輸送コストを削減 ●商品破損が少ない ●毎日の安全運行を実現 ●運転手の拘束時間短縮



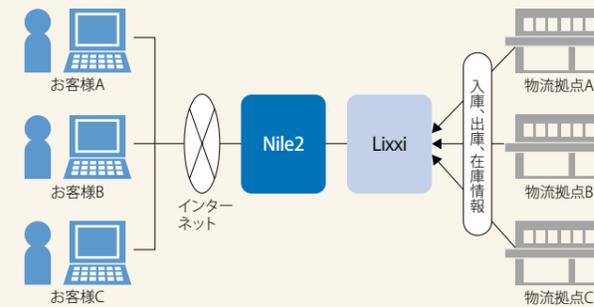
IT技術に裏打ちされた高度な物流品質

食品に対する安全・安心のニーズが高まるなかで、私たちは物流品質においても「選ばれつづける企業」でありたいと考えています。

グループ基幹情報システム「Lixxi^{リクシー}※1」によるきめ細かな物流情報管理により、賞味期限管理やトレーサビリティの確保に対応しています。また、「Nile2^{ナイル}※2」によるインターネットを通じた在庫情報の提供など、お客様のニーズに応じた高品質なサービスを提供しています。

※1 Lixxi: logistics information-system 21
※2 Nile2: Nichirei internet Logistics & e-commerce ver-2

荷主様向け情報提供サービス



全国の拠点における物流情報（入庫、出庫、在庫）をインターネットでリアルタイムに確認できる

発展を続けるニチレイロジグループの海外事業

ニチレイロジグループの海外事業は、1988年のオランダ進出から今年で20年という節目を迎えます。この間、欧州における冷蔵倉庫の設備能力は43万トンを超えるまでに成長しました。現在、ニチレイ・ホールディング・オランダB.V.の傘下に冷蔵倉庫事業4社9拠点、低温運送・通関事業



欧州の物流拠点

2社を有し、欧州の玄関港ロッテルダムを中心としてドイツ、ポーランドにも展開しています。

今後は、経済の急成長が続く東欧への事業拡大を図

るため、ポーランド南部に第二センターを建設、2009年秋の稼働をめざしています。

一方、2004年に上海鮮冷運有限公司を設立し、中国での事業基盤を確立しました。旺盛な需要に応えるべく新センターの設置を現在計画中です。

海外でも、お客様に選ばれ続ける高品質な物流サービスを武器としてグローバルな事業展開を推進していきます。



上海の物流拠点



上海の物流拠点の作業の様子





安全な製造原料の安定供給を担う

バイオ医薬の発展に原料で貢献する。

ニチレイバイオサイエンスは、革新的で安全な医薬品の製造用原料を、的確な技術情報の提供とともに、お客様にお届けしています。

より安全で副作用の少ないバイオ医薬品

安全で、より副作用の少ない医薬品を求めるニーズと技術の進歩から、近年、世界的に動物細胞培養を用いたワクチンや抗体医薬などのバイオ医薬の研究開発が活発です。日本でも細胞培養関連製品の市場が拡大しています。

ニチレイバイオサイエンスは、35年以上にわたりバイオ医薬品の製造用原料を目的とした製品の開発・製造を行っているSAFC Biosciences社の総輸入販売元として、細胞培養関連製品を製薬企業や大学・研究機関へ販売しています。

ニチレイバイオサイエンスでは、SAFC Biosciences社と協力しながら、安全で副作用の少ない革新的な医薬品の製造原料を、確実に、そして安定的にお届けしています。

高い安全性と品質管理を追求して

最終製品の安全性が厳しく求められる医薬品の製造では、使用する原料にも高い安全性と品質が要求されています。ニチレイバイオサイエンスでは、医薬品の製造に求められる基準と同等の基準に従って製造、品質管理された製品を販売しています。

製品の安全性や品質管理などについては、SAFC Biosciences社の技術部や品質保証部との協力によって、技術的な情報を正確に仲介し、迅速な医薬品の開発をサポートしています。



培地製品



試験成績書

VOICE

鈴木 菜緒子

(株)ニチレイバイオサイエンス営業部
培地製品営業チーム SAFC Biosciences, Inc 製品学術担当



バイオ医薬品の開発が世界中で活発になるに従い、その製造技術や方法も急速に進歩しています。最も重要な原料の一つである培地、血清を安心して医薬品製造に使用していただくために、日々、最新情報の収集に努めています。

ニチレイグループの安全・安心な商品の提供

品質保証体制

ニチレイグループでは、安全・安心な商品をお届けするために、グループ品質保証基本方針および品質管理規程に沿って、各事業会社が事業内容、提供する商品・サービスに応じた品質保証活動を行っています。

グループおよび各事業会社の品質保証委員会では、品質保証活動を経営視点から審査し、改善すべき問題点、お客様のご意見・ご要望などの情報を共有するとともに品質保証体制の継続的な改善に努めています。

品質保証に関する基本方針

グループの品質保証に関する基本方針は次の通りとする。

1. 食品衛生法、農林物資の規格化及び品質表示の適正化に関する法律等の食品関連法令、その他事業関連法令により要求される事項を遵守すること。
2. グループ品質管理規程で定める品質保証に関する要求事項を、グループ全体で遵守するとともに、製造委託先に対しても遵守させること。
3. 食品の安全・安心に対する生活者・取引先の要求事項を確実に把握し、グループ全体の品質保証力を継続的に高めること。

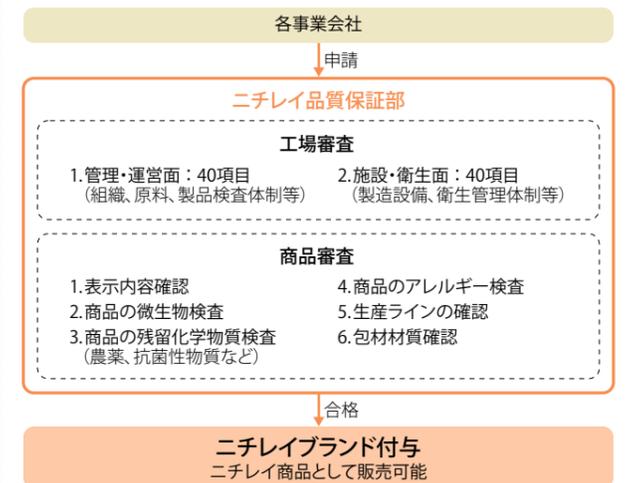
商品ブランド審査制度

ニチレイブランドの品質保証水準をグループ全体で維持・向上させ、お客様からの信頼にお応えするために「商品ブランド審査制度」を設けています。

この制度によって、各事業会社が販売する商品について、(株)ニチレイ品質保証部がブランドポリシーの観点から審査を行い、その審査に合格した商品だけがニチレイブランドとして販売されていきます。

審査は以下のフローの手順で実施されますが、各事業会社は、この審査結果を商品の品質維持・向上に役立てるだけでなく、品質管理体制の改善にも活かしています。

商品ブランド審査フロー



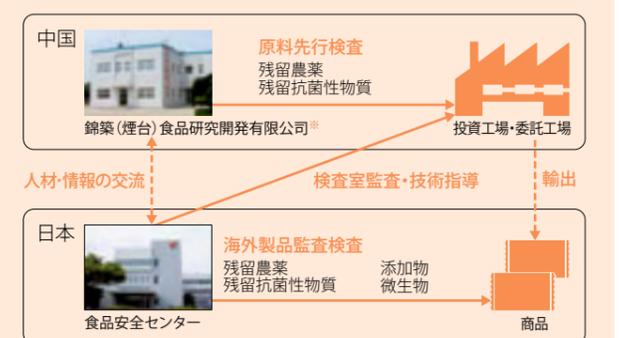
TOPICS

中国の検査・監査体制を強化

(株)ニチレイ品質保証部食品安全センターでは、各事業会社が販売する商品の安全性を確保するために、各種分析検査の実施、検査分析技術の開発に取り組んでいます。

特に、2008年初頭に発生した「中国製冷凍餃子農薬混入事件」を受けて、中国産原料、中国生産商品の検査体制をさらに強化し、安全・安心な商品をお届けできるように一層の努力を続けていきます。

※ 検査実施機関として中国山東省に(株)日清製粉グループ本社と共同で設立



ニチレイフーズの取り組み

調達段階での原材料管理

●工場診断

素材調達部原料グループの指示を受けて、製品の生産工場が原材料供給業者の工場を「原料メーカー工場診断シート」によって診断します。新規の原材料供給業者は、これに合格することが取引開始の条件となり、既存の原材料供給業者が不合格になった場合、改善指導したうえで評価点が基準を満たさなければ取引中止になります。

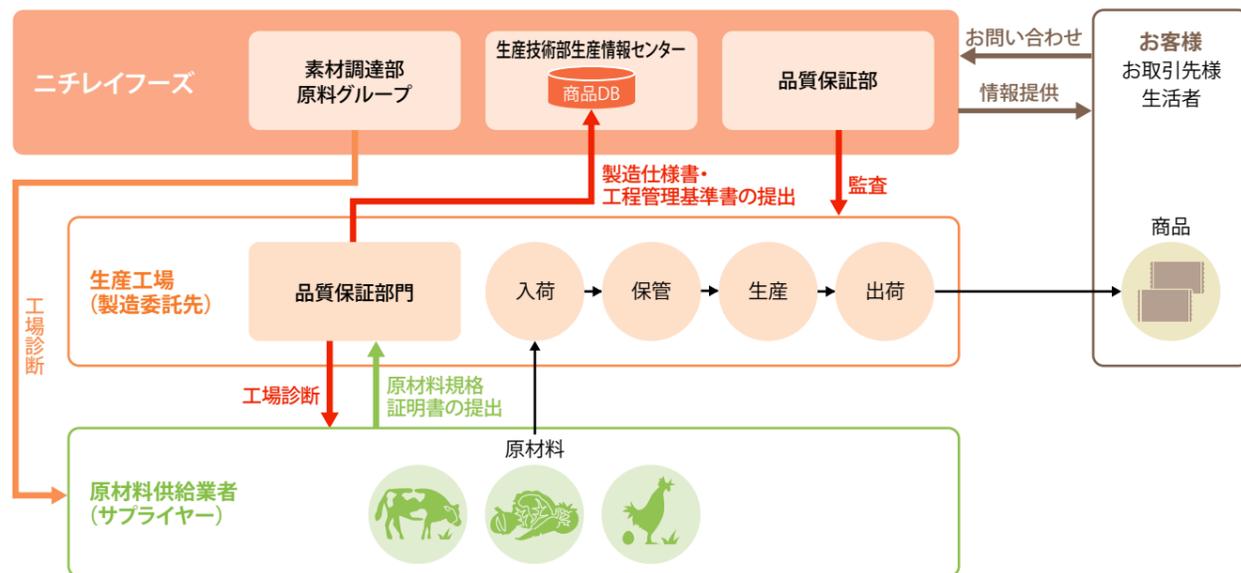
●原材料規格証明書

原材料に含まれる素材の配合割合、衛生規格・製造工程などの品質管理基準を明示した文書です。複数のチェックを受けたうえでデータベースに保存されます。現在、約6,000件が保管されており、商品の規格書作成やお客さまからのお問い合わせなどに活用されています。新規原材料を購入するに当たってはこの証明書を確認し、必要に応じて現場でチェックしたうえで選定します。

生産段階での品質管理

食品衛生・安全の各種関係法規および知識・経験を集大成した品質管理規程集に基づき、ISO9001とHACCPに準拠

ニチレイフーズの品質管理概念図



した方式を加えて生産品目ごとの製造仕様書と工程管理基準書を作成し、全工程の詳細な手順・条件を定めた標準作業を実施します。その適合性は毎月生産工場にて行われる品質保証委員会で検討され、さらに品質保証部、管理部による内部監査、およびAIB※による食品安全監査とISO認証機関の監査を受けています。

※ AIB (米国製パン研究所) : 製粉技術者育成を目的に設立。独自に定めた食品安全統合基準に基づき、食品工場の安全衛生レベルを監査・指導する国際機関で、監査の80%を生産現場の管理状態の確認に置く点が特徴。2001年度時点で世界78カ国、米国において年間11,000食品工場(製パン工場は10%)の監査を実施している。

お客様への情報開示

ニチレイフーズでは、2003年8月より商品情報の総合管理システムを運用しています。お客様対応部署や商品情報管理部においては、データベース化された情報を元にお客さまからのお問い合わせに対し情報提供を行っています。

また、データベース登録された商品情報はお客様への「商品ご案内書」として使用されます。

【原材料情報・履歴管理】

- 配合内容
- 添加物
- 産地
- アレルギー物質
- 遺伝子組み換え体など

【商品情報・履歴管理】

- 商品基本情報(名称、JANコード、一括表示内容、調理方法、賞味期限、栄養成分、商品画像、商品特徴)
- 表示に関する事項
- 製造工程
- 配合明細など

ニチレイフレッシュの取り組み

水産品・畜産品調達時の薬剤管理

生産・加工・輸入の各段階における管理ポイントを明確にするとともに、さまざまな観点から安全性の確保に努めています。

●生産段階

- 特に取り扱いの多い鶏肉、えびなどに関しては、飼育・養殖段階の一貫管理体制を整え、給餌、投薬などの履歴がトレースできるパートナーとの取引を拡大
- 生育期間中に抗生物質などを使用しないFA (Free from Antibiotics) の対象商品の拡大
- 抗生物質などの薬剤の使用実態調査および適正使用の推進・指導

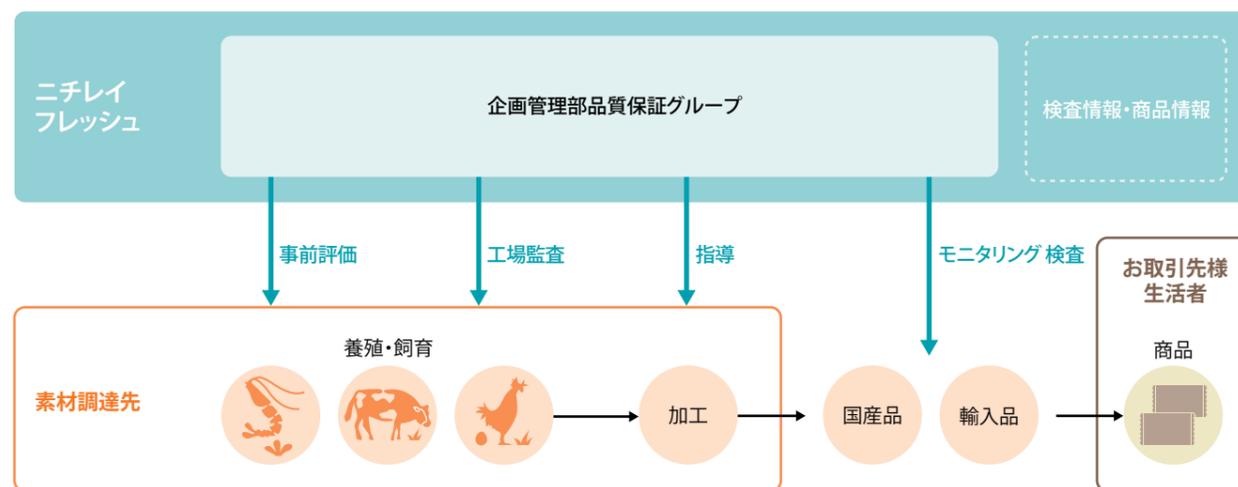
●加工段階

- トレースバックシステムに基づいたロット管理
- 中国の鶏肉加工場・うなぎ加工場、ベトナムのえび加工場を対象に、抗菌性物質の自主検査体制構築に向けた研修会を実施
- 中国産うなぎおよびベトナム産えびについては、工場での自主検査に加えて、抗菌性物質の輸出前検査体制を整備

●輸入後

- (株)ニチレイ品質保証部食品安全センターにおいて残留化学物質(合成抗菌剤、抗生物質など)の検査を定期的実施

「こだわり素材」の品質管理



生産工場の指導・監査の強化

2007年度は、国内外の協力工場の改善指導を行ったほか、特に中国の製造委託先工場については、(株)ニチレイ品質保証部とも協力し、衛生管理を強化する視点に立った緊急監査を実施しました。

また、(株)ニチレイフレッシュでは、すでにISO9001認証に基づく品質マネジメントシステムを導入しており、2007年度は水産加工品製造子会社である(株)まるいち加工においてもISO9001の取得に向けて活動しました。これにより、さらに徹底した品質管理体制の強化を図っています。

「こだわり素材」の提供

素材の品質・鮮度にこだわるニチレイフレッシュは、「こだわり素材」の安全・安心への配慮を最重要課題と位置づけています。

これまですでに好評をいただいている「FA (Free from Antibiotics) チキン」(生育期間中に抗生物質などを使用しない鶏肉)に加え、2007年には、養殖期間中に抗生物質などを使用しない「FAシュリンプ」についても管理基準を定め、商品化を図っています。

今後も、「こだわり素材」についての明確な管理基準に沿った定期的な監査により、安全・安心な商品の提供に努めていきます。

働きがいの向上

●「働きがいの向上」のページは、主に持株会社および基幹となる5社を報告対象範囲としています。
●ニチレイグループは、従業員をかけがえのない存在と考え、「人材」ではなく「人財」と表記しています。

働きがいの向上について

「従業員の成長の総和が、会社の成長につながる」「お客様の満足度を高めるためには、日々お客様と第一線で接する従業員が自分の仕事に働きがいを感じなければならない」という考え方から、ニチレイグループは、従業員重視の職場風土づくりを進めながら、従業員一人ひとりが仕事を通して自らの能力を高めていく能力開発の支援に注力しています。また、「従業員満足度調査」を通じて取り組みの成果をチェックし、働きがいを高める諸施策の改善などに活かしています。

こうして従業員の働きがいの向上に努めることで、ともに働く仲間との連帯感を感じながら仕事に誇りを持つことができ、自己の能力を十分に発揮することで、会社としての業績に貢献し、ひいては、ニチレイグループに関わるお客様満足度を高めていけるものと考えています。

従業員満足度調査の実施

従業員満足度調査についての考え方

ニチレイグループでは、社員はもとより契約社員、パート・アルバイト、派遣社員までを対象とした「従業員満足度調査」を毎年継続して実施しています。

調査を実施するグループ会社の経営層は、その結果である「従業員の声」を真剣に、かつ冷静に分析し、課題を抽出したうえで、課題と改善策を「経営層の言葉」として従業員に伝えることが、会社と従業員の信頼関係を築くうえで必要不可欠なものと考えています。一方従業員も、経営層からフィードバックされた、調査結果とそれに対する「打ち手」を受けて、自らが実行できる「お客様満足につながる行動」を考え、自身の行動を振り返ることが必要であると考えています。

このように経営層・従業員双方が、課題への解決策を考えることで、「従業員重視の職場づくり」を実現するとともに、お客様満足度の向上につなげていきたいと考えています。

2007年度調査の概要

●実施時期

2007年10月

●調査対象

各社（(株)ニチレイ、(株)ニチレイフーズ、(株)ニチレイフレッシュ、ニチレイロジグループ各社、(株)ニチレイバイオサイエンス、(株)ニチレイプロサーヴ）の社員、契約社員、パート・アルバイト、派遣社員

●主な調査内容

①仕事満足度、②職場満足度、③上司満足度、④労働条件満足度、⑤組織・人事満足度、⑥自社経営満足度、⑦グループ経営満足度、⑧総合満足度（①から⑦を総合的に勘案）の8要素

上記に加え、2006年度調査結果の説明・報告、調査後の取り組みの有無、改善成果の実感に対する従業員の意見・考えについても調査しています。

2007年度調査結果と今後の対応

2007年度調査においては、調査期間中に趣旨について繰り返し告知して啓発活動を行った結果、多くの従業員が参加し、最終的に全従業員の87%の声を収集しました。

その結果、①職場におけるコミュニケーション、②時間外労働、③年次有給休暇取得の3項目で従業員の満足度が低いことがわかり、今後の課題を明確にすることができました。

「職場におけるコミュニケーション」については、上司と部下との信頼関係が不足していることが原因と捉えています。職場内のコミュニケーションの活性化と従業員一人ひとりが目標・課題に対して積極的に行動することをめざして、自律的・自発的組織の実現策を検討していきます。

また、「時間外労働」の削減策、「年次有給休暇取得」の促進策については、ワーク・ライフ・バランス（以下WLB）分科会における適正労働時間管理委員会において、継続して検討を行っていきます。

さらに従業員へのフィードバックを強化するため、各社ごとに経営層を交えた車座ミーティングなどの職場集会、部署長職からの説明等を強化していきます。

人財委員会の開催

ニチレイグループでは、従業員満足度調査結果とそれに対する「打ち手」を共有することなどを目的とした人財委員会を定期的に開催しており、2007年度は、2007年8月と2008年3月に実施しました。

2008年度は、2008年7月、12月、2009年3月に開催を予定しています。

仕事と生活の両立支援

ワーク・ライフ・バランスの推進

仕事に対する価値観やライフスタイルが多様化するなか、仕事と生活のバランス（ワーク・ライフ・バランス：WLB）を重視する傾向が浸透しています。

ニチレイグループでは、グループ横断的にワーク・ライフ・バランスを推進するため、2006年度にWLB分科会を立ち上げ、各種制度やツールの整備、他企業との情報共有などを積極的に進めています。

WLB分科会には、各事業会社の人事担当者のほか、ニチレイ労働組合もメンバーとして参画しています。ほぼ月1回のペースで会議を開催しており、2007年度は、計8回実施しました。

ニチレイグループWLB基本方針

わたしたちニチレイグループは、社員ひとりひとりの「働きがいの向上」のために、充実した仕事と個人の生活を高いレベルで調和させる“ワーク・ライフ・バランス”の実践に取り組みます。

わたしたちは、公正・公平な処遇と個人の自律したキャリア形成を求め、ライフステージに応じた多様な働き方を推進します。

わたしたちは、多様な価値観を尊重し、「高度な専門性によって付加価値を生み出し続けるプロフェッショナル集団」であるために、仕事と個人の生活において常にかがやきをもった人財であり続けることを目指します。

2007年度のWLB分科会実績

2007年度は、次世代育成支援対策推進法に基づく一般事業主行動計画の策定・更新や次世代認定マーク（くるみんマーク）の取得支援のほか、時間外労働削減に向けた「ノー残業デー」の実施、年次有給休暇取得率の向上促進、夏期連続休暇取得促進などに取り組みました。

また、女性従業員を対象とした異業種交流研修（6プログラム、計16名が参加）の企画・運営や、出産・育児を控えた女性従業員を対象とした「次世代育成ガイドブック」を作成するなど、女性従業員の活躍推進にも積極的に取り組みました。

「次世代育成ガイドブック」は、産前産後休暇や育児休業を取得する従業員がニチレイグループの出産・育児に関わる制度を正しく理解し、安心して休暇・休業に入ることができるようにとの配慮から作成された手引書です。育児休業者が利用できる制度やサービスを出産→育児→復職の時系列でまとめたほか、サービスを受けるための申請方法や申請書類も利用者の視点に立ってわかりやすく解説しています。また、育児休業者だけでなく、職場をともにする上司・同僚にも読んでもらうことで、周囲の理解が深まるといった効果も期待しています。



TOPICS

「くるみんマーク」取得

次世代育成支援対策推進法に基づく一般事業主行動計画を策定、実施し、計画に定めた目標を達成するなど一定の要件を満たした企業は、都道府県労働局長より次世代育成対策に積極的に取り組んでいる企業として認定を受け、認定を受けた企業には、「くるみんマーク（次世代認定マーク）」の利用（商品・サービスのほかホームページ、名刺などへの貼付）が認められます。

ニチレイグループでは、2007年度に（株）ニチレイ、（株）ニチレイフーズ、（株）ニチレイプロサーヴの3社が申請を行い、認定を受けました。



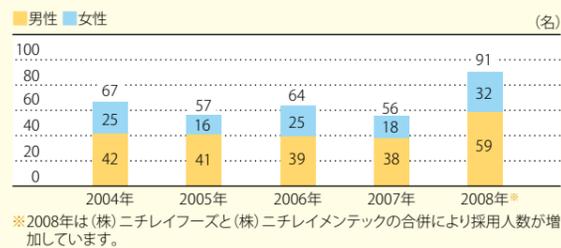
くるみんマーク

人財の雇用・登用

採用活動について

ニチレイグループは、個人の属性にとらわれず、適性や能力に応じた公平な人財採用を行っています。新卒採用については、ホームページ上に募集要項や各種情報を公開し、広く応募を受け付け、公正な選考を行っています。

採用実績(新卒)



障害者雇用の状況

ニチレイグループは、2005～2007年度までの3か年で障害者雇用率を2.0% (法定雇用率は1.8%) まで向上させることを目標に、障害者雇用促進策を実施してきました。2007年2月に特例子会社として(株)ニチレイアウラが認定を受け、2007年度の障害者雇用率は2.15%となりました。

今後はニチレイアウラの展開だけでなく、各事業会社における障害者の雇用機会の創出と職域拡大を進めていきます。

TOPICS

(株)ニチレイアウラ東京事務所の設立

ニチレイアウラは、ニチレイグループ各事業会社の事務所環境の整備などを中心業務としています。設立当初は、食品工場や物流センターなどを対象に業務を行っていましたが、2007年度は東京事務所を開設し、グループの本社機能が集中する築地地区での不要書類の回収業務および郵便物集配業務を開始しました。



退職者の就業機会の提供

シニアスタッフ制度

ニチレイグループは、2002年に「シニアスタッフ制度」を設置して、定年退職後も働く意欲のある希望者をシニアスタッフとして登録し、就業機会を提供してきました。2006年4月には、改正高年齢者雇用安定法の施行に伴い、同制度を一部改めて「新シニアスタッフ制度」に移行しています。

2007年度は、10名が60歳定年後もニチレイグループで働いています。

人財育成・キャリア開発

ニチレイグループでは、人財育成・キャリア開発制度として、「フレッシュ&フェアプログラム」を実施しています。詳しくはホームページをご覧ください。

http://www.nichirei.co.jp/saiyo/new_graduate/all/career.html

安全で快適な職場づくり

労働安全衛生の確保

ニチレイグループでは、労働安全衛生法による設置義務の有無に関わらずすべての事業所に安全衛生委員会を設置し、労働災害の防止や従業員の健康管理を目的とした安全衛生管理の推進に努めています。

2006年度に労使共同で立ち上げた「適正時間労働委員会」を、2007年度からWLB分科会に統合し、引き続き労働時間管理のモニタリングを毎月実施しています。

2007年度は特に時間外労働の削減、従業員の心身の健康の維持・増進について取り組み、時間外労働が月間80時間を超える従業員に対する産業医との面談の勧告、夏季の連続休暇取得促進の啓発、「ノ一残業デー」の導入(一部を除く)、「こころの健康診断」の実施を行いました。

コンプライアンスの徹底

法令等遵守と企業倫理に則した行動の推進

行動規範および事例集を全従業員に配付

ニチレイグループでは、法令、社内規程を遵守し、企業倫理に即して行動するための指針や具体的な事例を明示した「行動規範」および「行動規範事例集」を新規法令の施行なども踏まえ、2006年度に改訂を行いました。全従業員に改めて周知するとともに、各社掲示板の「ケーススタディ」などを通じて教育・啓発を行っています。今後はe-ラーニングなども実施し、さらに徹底を図っていきます。

内部通報制度の周知徹底

違法行為や社内規程などに違反する行為、企業倫理上問題のある行為、セクシャル・ハラスメントなどに関する従業員からの通報や相談に応じるため、2003年10月から第三者機関を活用し、通報者を保護する内部通報制度(ニチレイホットライン)を導入するなど、コンプライアンスを徹底しています。

本制度の導入から4年が経過し、2007年度は周知徹底をより一層図るため、ポスターおよび解説シートを作成し、グループ各社のすべての事業所に掲示を促しました。本制度の存在を視覚的に示し、不正防止や法令等遵守に前向きに取り組む企業風土の醸成に努めています。

ニチレイグループの行動規範目次 (2006年10月改訂)

- 法令および社内規程・ルールの遵守
- 会社財産の有効活用と公私混同の禁止
- 社会貢献に関する行動
- 事業活動に関する基本的な姿勢
- 個人の立場と社員の立場の利害調整
- グループ会社間および協力会社・下請事業者との交際
- 情報セキュリティー
- 国家公務員など行政団体への対応について
- 内部通報・相談制度について

行動規範の詳細はホームページをご覧ください。

グループ経営監査

ニチレイグループでは、持株会社の経営監査部が、国内外のグループ会社・各事業所の法令等遵守状況や生産工場や物流センターなどの施設の状況について監査を実施しています。

2007年度は、コンプライアンスチームが252カ所、設備監査チームが158カ所の事業所を監査しました。内部統制に関するグループ全体の意識向上を目的に、業務の有効性・効率性の向上、法令等遵守、財務報告の信頼性の確保、資産の保全を柱とした「内部統制チェックシート」を各社・各事業所に配付し、自主チェックを行いました。

2008年度は、内部統制システムの整備・運用状況と有効性の評価に重点をおいた監査を実施し、経営システムにおける問題発生への未然防止に努めています。

個人情報保護の徹底

ニチレイグループは、個人情報保護の責任体制を明確にするため、各事業会社においてCPO(チーフプライバシーオフィサー)および個人情報取扱責任者を任命し、個人情報保護の徹底を心がけています。

具体的な動きとしては、「プライバシーマーク制度」に基づくマネジメントシステムの導入が有効であるという考えのもと、(株)ニチレイフーズダイレクトおよび(株)ニチレイプロサーヴが同制度の認証を取得しています。

人権研修の実施

基本的人権について従業員が正しい理解と認識を深めるため、ニチレイプロサーヴでは2007年12月、社内研修を実施しました。「人権の尊重とセクシャル・ハラスメント・パワー・ハラスメント防止について」をテーマに、(財)東京都人権啓発センターから講師をお迎えし、本社地区55名が受講しました。今後はグループ全体に展開していく方針です。



人権研修の風景

コーポレートガバナンスの確立

業務執行・経営の監視の仕組み

持株会社においては、経営監督機能の強化を図るために全取締役10名中3名の社外取締役が月1回以上の取締役会や持株会社における各種会議に出席しています。

また、両代表取締役は監査役会に対しても定期的に業務執行状況を報告する機会を設けて、業務執行に対する監査役の監督機能が果たせる仕組みを構築しています。

一方、事業経営支援部(持株会社内設置)のメンバーは各事業会社の監査役(非常勤)を兼務するとともに、各事業会社の経営進捗状況などをモニタリングし、その結果を毎月開催される持株会社の会議で報告しています。

また、同様に経営監査部(持株会社内設置)のメンバーは、法令等遵守状況やリスクマネジメント状況の監査のほか、専門担当者による建物施設監査も行い、リスク最小化に取り組んでいます。

2008年度は、内部統制システムの整備・強化にあわせて、ニチレイグループの全社統制と業務プロセスの整備・運用状況の検証および有効性の評価を実施することにより、内部統制システムの定着に努めています。

経営支援機能の向上をめざして プロサーヴの組織改正

2005年4月にニチレイグループが持株会社経営体制へ移行して以来、ニチレイとニチレイプロサーヴ(以下、プロサーヴ)は、機能会社として各グループ企業に対する事業経営支援機能を分担してきました。3年を経過した現在、両社がグループ基幹事業の戦略遂行の変化にきめ細かく対応し、より一層の業務効率の向上を図るためには、品質保証グループを除くニチレイコーポレート部門とプロサーヴとの連携強化が必要と判断し、大幅な組織改正を実施することとしました。

具体的には、コーポレート・スタッフとシェアードサービス・スタッフに分かれていた要員を一元的にプロサーヴに配置して機能重複を省き、シームレスな業務運営体制を構築することにより、持株会社経営トップの意思決定にお

内部統制システムの整備・強化

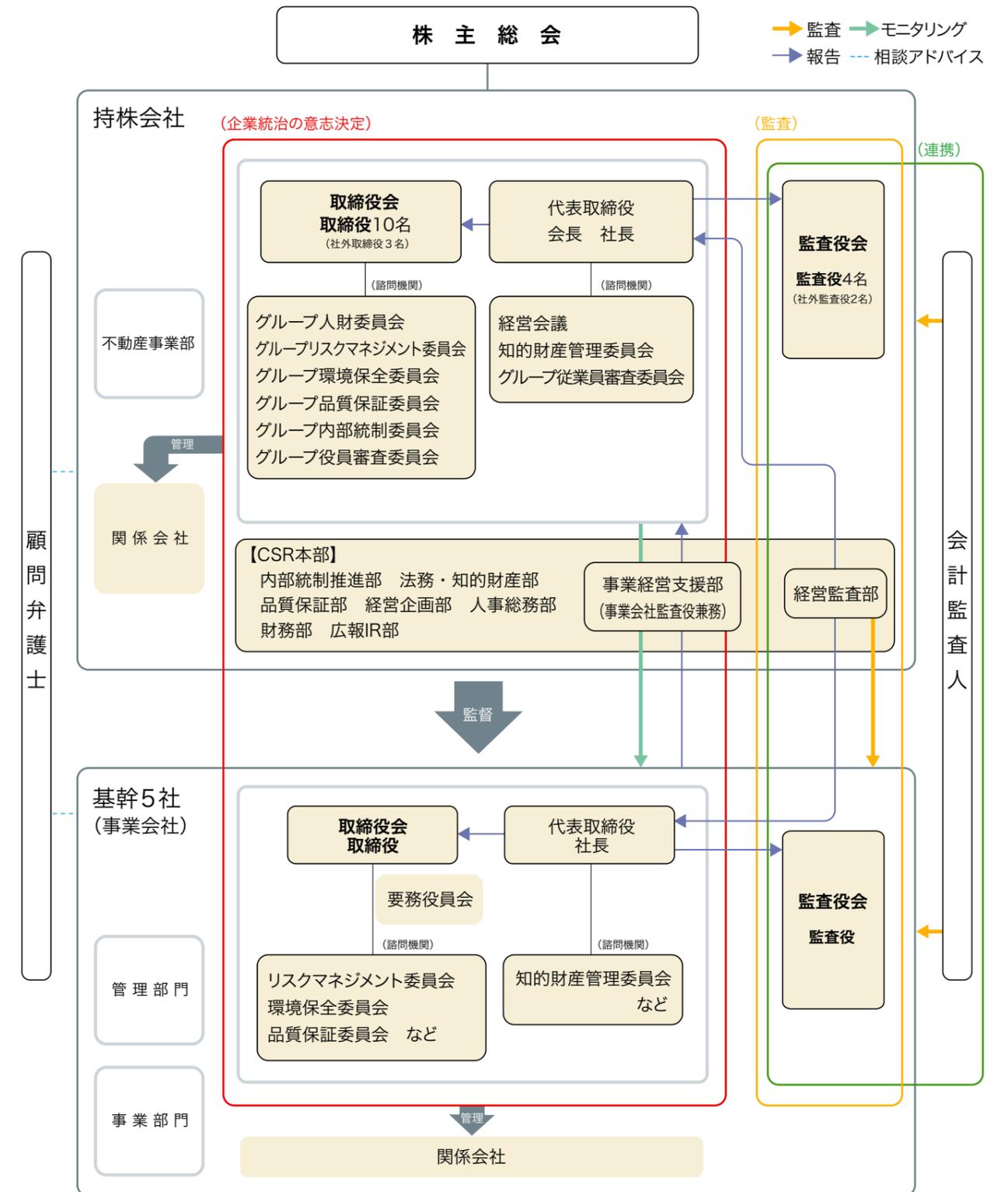
日常業務の改善活動を見直し、生産性向上や洞察力の強化など企業価値向上を目的とし、さらに会社法、金融商品取引法への対応も見据えた内部統制システムの整備・構築を推進しています。そのために、持株会社並びに各事業会社においては一貫性・整合性のある「内部統制システムの基本方針」を策定するとともに、毎年見直しを行い適切なグループ運営に努めています。2008年4月にも見直しを実施し基本方針を改訂しました。

また、2007年度は持株会社内の内部統制推進グループ並びに各事業会社から選任された担当者を中心にニチレイグループが一体となったプロジェクトを発足させ、内部統制システムの検証並びに整備を行ってきました。さらに外部のアドバイザーとも契約し、第三者的な視点からの検証も行っています。これらの取り組みで明らかになった課題に対しては、規程など基本的な部分をも見直すなど必要な改善策を講じ、ステークホルダーの皆様にも信頼していただける内部統制システムの強化に取り組んでいます。

いて適切なサポートを行うとともに、各事業会社が必要とする間接業務サポートを迅速かつ効率的に提供することをめざしています。加えて、両社の従業員のキャリア形成を一元管理することで、事業支援系業務に携わる従業員の人財育成や、モチベーションの向上に効果を発揮するものと期待しています。

持株会社であるニチレイとプロサーヴは有機的に連携して、グループ各社に期待される事業経営支援機能を提供し、ニチレイグループの企業価値向上に貢献していきます。また、プロサーヴ設立以来、グループ内外から一定の評価を受けてきた「お客様意識の向上」や「ローコスト運営の推進」の実績を大切に、今後も顧客ニーズを常に的確に把握し、「満足品質」を提供し続けていきます。そして、今回の組織改正を契機として、すべての従業員とともに「働きがいのある会社」づくりに取り組んでいきます。

コーポレートガバナンス体制図



環境への配慮

事業活動と環境負荷

ニチレイグループは、事業活動に関わる環境負荷を継続的に把握し、環境保全活動に活かしています。また、集計範囲を拡大し、より広くデータを集めることで、活動の幅を広げていきます。

2007年度実績集計対象事業所 下記各社の食品工場、物流センターなどを集計対象としている。事業所が複数ある場合は()内に数を記載

ニチレイフーズ (株)ニチレイフーズ(7)、千葉畜産工業(株)、(株)ニチレイ・アイス(2)、(株)中冷	ニチレイバイオサイエンス 開発センター
ニチレイフレッシュ (株)まるいち加工(3)、横浜南プロセスセンター、川越プロセスセンター	その他 (株)ニチレイガーデン
ニチレイロジグループ (株)ロジスティクス・ネットワーク(30)、(株)NKトランス(3)、(株)ニチレイ・ロジスティクス北海道(5)、(株)ニチレイ・ロジスティクス東北(3)、(株)ニチレイ・ロジスティクス関東(8)、(株)ニチレイ・ロジスティクス東海(11)、(株)ニチレイ・ロジスティクス関西(15)、(株)ニチレイ・ロジスティクス中国(8)、(株)ニチレイ・ロジスティクス四国(7)、(株)ニチレイ・ロジスティクス九州(14)、(株)キョクレイ(4)、三重中央市場冷蔵(株)、下関漁港運輸(株)	※工場、物流センターの同一敷地内にある事業所のエネルギー使用量なども含まれる ※各社の本社、支店、営業所で把握可能なエネルギー使用量や車両の燃料使用量なども含まれる ※海外事業所は含まれない

INPUT

原材料 114千トン
 原料 101 千トン
 包装資材 13 千トン



エネルギー 4,738千GJ※1

購入電力※2 427,502 千kWh	その他 41 (0.9%)	ニチレイフーズ 1,165 (24.6%)
太陽光発電(自家発電) 283 千kWh	ニチレイバイオサイエンス 11 (0.2%)	ニチレイフレッシュ 100 (2.1%)
重油 5,835 kl	ニチレイロジグループ 3,421 (72.2%)	
灯油 2,200 kl		
都市ガス 2,768 千m ³		
LPG 1,891 トン		
ガソリン(社有車) 253 kl		
軽油(社有車) 543 kl		

合計 4,738 千GJ

※1 J(ジュール)はエネルギーの単位で、4.2Jが約1calに相当する
 ※2 購入電力の内、100万kWhについてグリーン電力を購入

水 4,067千m³

上水 1,168 千m ³	その他 10 (0.3%)	ニチレイフーズ 2,155 (53.0%)
工業用水 624 千m ³	ニチレイバイオサイエンス 5 (0.1%)	ニチレイフレッシュ 217 (5.3%)
地下水(井水) 2,275 千m ³	ニチレイロジグループ 1,680 (41.3%)	

合計 4,067 千m³

OUTPUT

廃棄物

事業所外排出量 32 千トン	事業所外排出量	最終処分廃棄物量
リサイクル量 31 千トン	その他 31 (0.1%)	その他 30 (4.9%)
最終処分廃棄物量※3 1 千トン	ニチレイバイオサイエンス 27 (0.1%)	ニチレイバイオサイエンス 1 (0.1%)
	ニチレイロジグループ 12,265 (38.9%)	ニチレイフレッシュ 175 (27.9%)
	ニチレイフレッシュ 1,902 (6.0%)	ニチレイロジグループ 408 (65.1%)
	ニチレイフーズ 17,287 (54.9%)	

合計 31,512 トン

合計 627 トン

※3 事業所外に排出される廃棄物のうち、直接処分場に埋め立てられる廃棄物およびエネルギー利用などがなく単純焼却される廃棄物の量

大気系

CO ₂ ※4 197,420 トン-CO ₂	CO ₂ 排出量
NOx 39 トン	その他 1,701 (0.9%)
SOx 34 トン	ニチレイバイオサイエンス 445 (0.2%)
	ニチレイフレッシュ 4,191 (2.1%)
	ニチレイロジグループ 134,667 (68.2%)
	ニチレイフーズ 56,416 (28.6%)

合計 197,420 トン

※4 購入電力量のCO₂排出量への換算係数は0.378kg-CO₂/kWhを使用
 地球温暖化対策の推進に関する法律に基づく電気事業者別係数を使用した場合、CO₂排出総量は203,182トン-CO₂

水系

排水 2,635 千m ³	排水量
下水道 1,357 千m ³	その他 10 (0.4%)
公共水域(河川など) 1,278 千m ³	ニチレイバイオサイエンス 5 (0.2%)
排水負荷量	ニチレイフレッシュ 144 (5.5%)
BOD※5 103 トン	ニチレイロジグループ 998 (37.9%)
COD※5 3 トン	ニチレイフーズ 1,478 (56.1%)

合計 2,635 千m³

※5 排水濃度測定を実施している場合のみ排出量を算出

ニチレイグループ 環境方針・長期目標

ニチレイグループは、グループ共通の環境方針のもと、2010年度を達成目標年度とした長期目標を策定しています。各事業会社では、この長期目標に基づき、事業内容とその環境負荷の特性に応じた個別の目標を設定し、環境負荷削減に取り組んでいます。▶各事業会社の目標はP30～31をご覧ください

環境方針

(1992年策定)

1. 環境負荷低減に努めます。
2. 環境マネジメントシステムの構築により、環境保全対応の強化を図ります。
3. 環境法規、条例等の法的要求事項を遵守します。

長期目標(達成目標年度 2010年度)

① 廃棄物削減と再資源化

廃棄物の発生抑制、再使用、リサイクルを推進し、最終処分廃棄物量※ゼロをめざします。

※ 事業所外に排出される廃棄物のうち、直接処分場に埋め立てられる廃棄物およびエネルギー利用などがなく単純焼却される廃棄物の量

② 地球温暖化防止

食品工場や物流センターなどでのエネルギー使用量や物流時の燃料使用量の低減など、事業活動に伴い排出されるCO₂の削減に努めます。

- 食品工場についてはグループ数値目標を設定

対象：ニチレイフーズおよびニチレイフレッシュ国内食品工場

目標：生産トン当たりのCO₂排出量(電力・燃料由来)を1999年度比15%削減

③ 環境に配慮した商品・サービスの提供

各社の事業の特性を踏まえ、環境負荷低減に貢献できる商品・サービスを提供します。

④ 環境への影響の大きい化学物質への適切な対応

適正管理および必要に応じた迅速な処理などにより、環境への影響を最小限に抑えます。

⑤ 本社・支社オフィスにおける環境保全への取り組み

事務所における省エネ活動やごみの分別、グリーン購入などに取り組めます。

⑥ 環境マネジメントシステムの構築

各社の事業特性に沿った環境負荷の低減を推進していくための仕組みを構築、改善していきます。

⑦ 環境法規遵守

遵守状況を常に確認するとともに、制定や改正などにも迅速に対応します。

環境マネジメント

環境マネジメント体制

多岐にわたる分野の事業会社で構成されるニチレイグループは、各社の事業活動により環境負荷の特性が異なることから、事業会社ごとに「環境保全委員会」を設置し、各々の特性に応じた環境対策の立案、実効性の高い環境活動を推進しています。各社の取り組みは、年に3回開催される「グループ環境保全委員会」において報告され、取り組みの内容・進捗に応じてグループ全体の環境保全に関する政策・方針を策定しています。

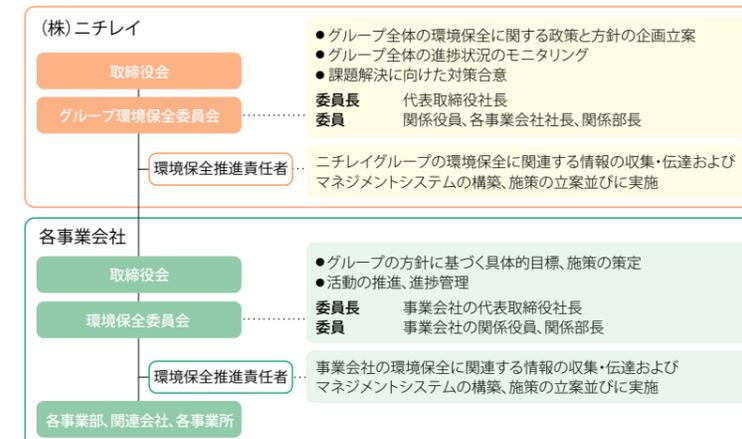
▶各事業会社の目標はP30～31をご覧ください

ISO14001などの認証取得状況

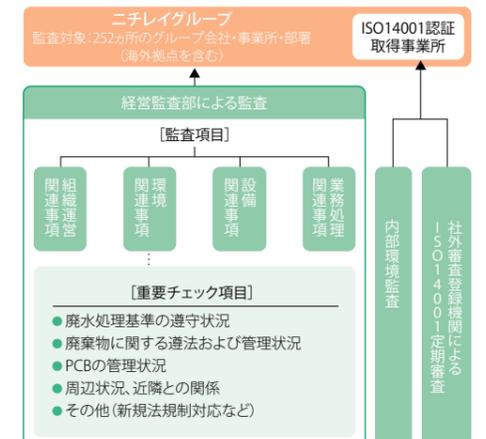
ニチレイグループは、食品工場におけるISO14001認証取得を優先しています。2008年3月に(株)中冷が認証取得し、ニチレイフーズの直営・子会社全11工場での認証取得を完了しました。今後は、2008年4月から新たに子会社となった(株)キューレイの認証取得をめざします。

また、ニチレイロジグループでは(株)キョクレイ本社・大黒物流センターが、2008年4月に倉庫業におけるグリーン経営認証を取得しました。今後、上記以外の物流センターにおいても認証取得をめざします。

環境マネジメント体制



環境監査体制



環境監査

ニチレイグループでは、(株)ニチレイの経営監査部が行う監査において、組織運営、業務処理などの事項とともに、環境法規の遵守や環境保全上の重要事項に対する監査を実施しています。

また、ISO14001認証取得事業所では、上記に加え、内部環境監査および社外審査登録機関による年1回の外部審査を実施しています。

環境事故、法規違反の状況

2007年度は、環境に重大な影響を与える環境事故、法規違反はありませんでした。

環境会計

ニチレイグループは、環境保全活動に要したコストおよび環境保全上の効果を定量的に把握するために、2000年度から環境会計を導入しています。食品工場、物流センターにおける環境保全コストおよびISO14001認証取得事業所における環境保全対策に伴う経済効果の把握を行っています。

▶環境会計の詳細はホームページをご覧ください

各事業会社の環境目標

事業会社ごとの2009年度までの3か年目標／2007年度目標と実績および2008年度目標

	課題※1	2007～2009年度目標	2007年度目標	2007年度実績	2008年度目標
	廃棄物削減	直営・子会社全工場でのごみゼロ達成	現状維持(9事業所)	現状維持	現状維持
		生産トン当たりの排出量※2を2005年度比20%削減	2005年度比10%削減	2005年度比15%削減	2005年度比18%削減
	地球温暖化防止	生産トン当たりのCO ₂ 排出量を1999年度比15%削減	1999年度比13%削減	1999年度比9%削減	1999年度比14%削減
		商品輸送時のエネルギー使用量原単位(kl/百万トンキロ)を2006年度比5%削減	2006年度比2%削減	2006年度比3%削減	2006年度比4%削減
環境配慮商品	売上高当たりのプラスチック容器包装重量の削減(対象:家庭用商品)	2004年度比1%削減	2004年度比6%削減	現状維持	
	廃棄物削減	全廃棄物再資源化の仕組み構築	未達成事業所の委託先見直し	最終処分廃棄物量は2006年度比で39%削減	廃棄物再資源化95%
	地球温暖化防止	生産トン当たりのCO ₂ 排出量を1999年度比15%削減	対策の立案、実施	1999年度比15.2%削減(ボイラー入替え等実施)	現状を維持
	環境配慮商品	養殖時の薬剤使用を低減したえびの取扱い拡大 養殖えびに占める売上比率60%	売上比率55%	売上比率42.7%	売上比率55%
		FAチキン、オーガニックチキンの取扱い拡大 年間取扱量4,000トン	年間取扱量3,500トン	年間取扱量3,750トン	年間取扱量3,900トン
		新たなFA商品の開発推進	フェロー産の養殖鮭の取り組み	現地調査、研究を開始	継続
		MSC漁業認証取得商品への取り組み	漁業認証、COC認証の可能性検討	具体的実施に向け検討開始	継続
	バイオマス発電を利用した養鶏事業への取り組み	日産3,000羽の生産	バイオマス発電は断念	鶏ふんの肥料化(年間80万羽)	
	廃棄物削減	最終処分廃棄物量を1999年度比97%削減	1999年度比90%削減	1999年度比91%削減	1999年度比94%削減
	地球温暖化防止	エネルギー使用量原単位を2005年度比4%削減(対象:エネルギー管理指定工場)	2005年度比2%削減	5センターで達成(対象15センター)	2005年度比3%削減
		受託物流におけるCO ₂ 排出量原単位を2006年度比3%削減	2006年度比1%削減	2006年度比24%増加	2006年度比2%削減
		グリーン経営認証を推進し、協力会社で認証取得	40以上の協力会社で取得	34社で取得	40以上の協力会社で取得
	環境配慮商品	●物流共同化などにより環境負荷を低減する事業を推進 ●営業提案時に環境配慮のための評価を実施(CO ₂ 排出削減量など)	目標値は未設定	●駅ビルへの共同配送を開始 ●冷食共配における環境配慮に対する評価を実施	グループ会社ごとに目標設定
オフィス	社有車へのエコ車両採用を推進、事務所の省エネルギー・グリーン購入推進	目標値は未設定	エコ車両比率が2006年度比14ポイントアップ	グループ会社ごとに目標設定	
	廃棄物削減	廃棄物再資源化率95%(開発センター)	廃棄物再資源化率90%	廃棄物再資源化率97.8%	廃棄物再資源化率98%
	地球温暖化防止	売上高当たりのCO ₂ 排出量を2004年度比2%削減(開発センター)	省エネ管理手法取得	電力使用量の個別監視・測定仕組み構築 エコ委員会の開催(9回/10ヵ月)	2004年度比1%削減 エコ委員会の開催(10回/年以上)
	環境配慮商品	紙製ラベル導入率50%以上	導入率5%以上	導入率5.9%	導入率40%以上
	廃棄物削減	コピー用紙使用量削減 一人当たりの年間使用量7,000枚以下	9,000枚/人以下	8,520枚/人	8,000枚/人以下
	地球温暖化防止	本社電力使用量を2005年度比15%削減(照明・コンセント)	2005年度比11%削減	2005年度比10%削減	2005年度比13%削減
	従業員環境意識向上と社会貢献活動の推進	●環境教育および社会貢献活動への参加 ●社会貢献活動への参加 (2009年度参加率100%)	●環境教育参加率100%(本社) ●社会貢献参加率20%	●社会環境報告書を基に説明会実施(参加率87%) ●東京都グリーンシップアクション参加 ●エコキャップ運動実施	左記活動の継続 追加活動の実施

※1 課題詳細 廃棄物削減: 廃棄物削減と再資源化 環境配慮商品: 環境に配慮した商品・サービスの提供 オフィス: オフィスにおける環境保全の取り組み
 ※2 ここでの排出量: 有償リサイクル量④最終処分廃棄物量(P27、P32)における事業所外排出量とは異なる

その他 ①昨年度掲載したグリーン購入の推進に係る数値目標については偽装問題に伴い、目標値は未設定とし検討中
 ②ニチレイプロサーヴは機構改正に伴うISO9001取得維持の活動継続により14001取得の時期を再検討
 ③上記以外のグループ2010年度目標についても事業活動に沿って継続的に取り組み実施

廃棄物削減と再資源化

事業所において排出されるごみの削減・リサイクル

ニチレイグループは、事業所から排出されたごみ(事業所外排出量)のうち、処分場に直接埋め立てられる廃棄物、およびエネルギー利用などがされず単純焼却される廃棄物の量(最終処分廃棄物量)を、2010年度までにゼロにすることを目標に掲げ、事業会社ごとに目標、重点課題を定めて廃棄物削減と再資源化の取り組みを進めています。

2007年度の取り組み結果および今後の方針

各事業会社が設定目標を達成したことにより、最終処分廃棄物量は、627トン(2006年度比54.6%削減)となり、1999年度比では95.5%削減となりました。

現在、最終処分されている廃棄物には、紙くずなど地域によって事業系一般廃棄物の処理場が単純焼却している場合や、種類や量などによってリサイクル先が見つからない場合などありますが、発生の抑制も含めさらなる削減に取り組んでいきます。

食品廃棄物のリサイクル

食品工場から排出される食品廃棄物については、99%以上がリサイクルされています。

また、ニチレイフーズでは、賞味期限切れなどにより物流の段階で発生する食品廃棄物についても、堆肥化・飼料化やメタン発酵によるリサイクルを進めており、2007年度は、99%をリサイクルしました。

事業所外排出量および最終処分廃棄物量(ニチレイグループ)



事業所外排出量および最終処分廃棄物量の内訳

廃棄物の種類	事業所外排出量 (トン)	最終処分廃棄物量 (トン)
食用油	1,011 (1,851)	0 (8)
動植物性残さ	9,379 (8,928)	116 (4,582)
フロス・余剰汚泥	3,782 (7,747)	2 (3,114)
プラスチック類	1,980 (833)	57 (812)
空缶	304 (346)	2 (54)
紙・段ボール類	9,742 (4,823)	14 (2,756)
木屑	1,134 (1,442)	18 (668)
その他*	4,181 (2,523)	416 (1,976)
合計	31,512 (28,493)	627 (13,970)

()内は1999年度実績
*その他：紙くずなどの一般廃棄物を中心とする雑多な廃棄物

外箱を廃止し、工場に持ち込まれる段ボールを削減

従来、商品包装用のロールフィルムは段ボール箱に入った状態で工場に納入されていました。ニチレイフーズではこの梱包をシュリンク包装に変更し、段ボールの使用量削減に取り組んでいます。

この取り組みでは、配送トラック内の清掃状況のチェックや工場での受け入れ時の検査方法を改良するなど、包装材料メーカーや運送会社にご協力をいただき、確実な品質維持に努めたうえで進めています。

2007年度は(株)ニチレイフーズ 白石工場で8アイテムについて実施し、約2トンの段ボールの使用および廃棄の削減につなげました。今後もこの取り組みを広げていきます。

商品包装用ロールフィルムの梱包の変更



廃食用油を分離して、飼料に再利用

(株)ニチレイフーズ 長崎工場では、かき揚げや春巻などを揚げる際に使用する油から衣のかすを取り除くために、濾材を使用しています。

使用済みの濾材は、油を含んだまま廃棄していましたが、

廃棄前に遠心分離機を使って油を搾り、搾った油を飼料の原料として売却しています。

この取り組みにより、2007年度は32トンの廃棄物削減と油の有効利用につながりました。



物流センターでのプラスチック類の減容

ロジグループの物流センターでは、保管や輸配送時の荷崩れ防止のために使用しているストレッチフィルムなどのプラスチック類が作業過程で廃棄物になります。また、不要となった発泡スチロールの空き箱も多く発生します。これらはそのままでは容積が大きく、保管場所の確保や廃棄のための運送コストの負担がリサイクルの障害になることがあります。

品川物流センターでは、近隣の川崎ファズ物流センターのものも含めて、これらのプラスチックを圧縮・減容したうえでリサイクルしています。



養鶏場での鶏ふんの肥料化

ニチレイフレッシュが運営する(株)ニチレイフレッシュファームで発生する鶏ふんは、農場内に設置された最新鋭の高速鶏ふん処理プラントで有機肥料に生まれ変わり、農業用有機肥料として100%土壌に還元されています。

▶P12~13で詳しく紹介しています。

地球温暖化防止

食品工場におけるCO₂排出削減

主に加熱調理のために使用される燃料や商品の冷凍時に使用される電力の利用に伴ってCO₂が排出されます。ニチレイグループの食品工場では、1999年度を基準として生産トン当たりのCO₂排出量(以下原単位)の削減に取り組んでいます。

2007年度の取り組み結果および今後の方針

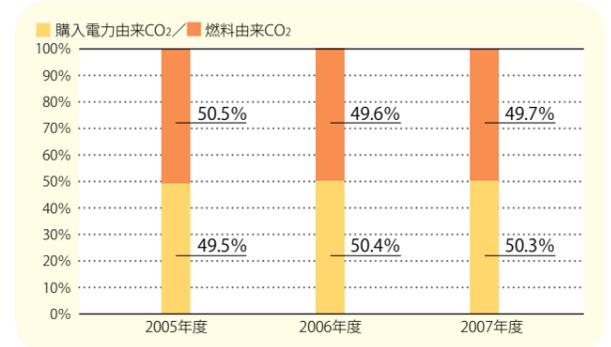
2007年度は、廃油ボイラーの導入拡大、設備導入時の省エネルギー対応などを実施しましたが、品質保持のための低温化や検査設備の増強などにより、原単位は増加しました。

今後も引き続き省エネルギー機器・省エネルギー技術の導入や新エネルギーの活用検討、設備管理の徹底などを推進し、CO₂の排出削減に取り組んでいきます。

食品工場のCO₂排出量



購入電力使用と燃料使用に由来するCO₂の割合



電気やフロンを使用しない空調設備の導入

(株)ニチレイフーズ白石工場では、従来の電気を主動力源とする冷凍機ではなく、水が蒸発する際に周囲から熱を奪う気化現象を利用した省エネルギー・ノンフロン型の冷却設備を導入しました。

これにより年間85千kWの電力削減を見込んでいます。



気化熱により空気を冷やす装置

廃食用油の再利用

(株)ニチレイフーズ船橋工場では、揚げ物などをした後に排出される廃食用油を濾過し、ボイラー燃料と混合して再利用しています。食用油は大豆や菜種を原料としており、石油などの化石燃料の使用量を削減することで、CO₂の排出削減につながります。

この取り組みは(株)中冷に続く事例に当たり、今後さらに他工場への展開を検討しています。



廃食用油を処理し燃料を混合する装置

物流センターにおけるCO₂排出削減

物流センターにおけるエネルギー消費は、保管している食品の品質保持のための電力消費がその大部分を占めます。ニチレイロジグループでは、省エネルギー法の対象となるエネルギー使用量の大きい物流センター(指定工場)を中心に、省エネルギー活動を継続しています。

2007年度の取り組み結果および今後の方針

物流品質強化のため、低温室の能力増強などを進めるなか、2007年度は、冷蔵室内の照明を高効率型照明器具に切り替えるなどのエネルギー削減対策を実施したことで、CO₂排出量を2006年度比で削減しました。

今後、効率運転などの活動を継続するとともに、さらに省エネルギー機器への切り替えなどを進めていきます。

物流センターの主なエネルギー削減対策

- 冷却設備の効率運転の継続
- 高効率型照明器具への切り替え
- 外気侵入防止のための設備改修
- 事務所における節電活動 など

物流センターのCO₂排出量(購入電力由来分)



高効率型照明器具の開発、導入

(株)ニチレイ・ロジスティクスエンジニアリングでは、省エネルギー効果の高い低温用蛍光灯器具を電機メーカーと共同開発しました。反射板の性能を高め、従来型の照明器具に比べ1.7倍の照度が得られるため、照明器具の設置台数を減らし、省エネルギーを図ることができます。ニチレイロジグループの物流センターにおいても、既存の照明器具の切り替えや、新設センターへの導入を進め、CO₂の排出削減につなげています。



切り替え前の倉庫内



切り替え後の倉庫内

開発した照明器具

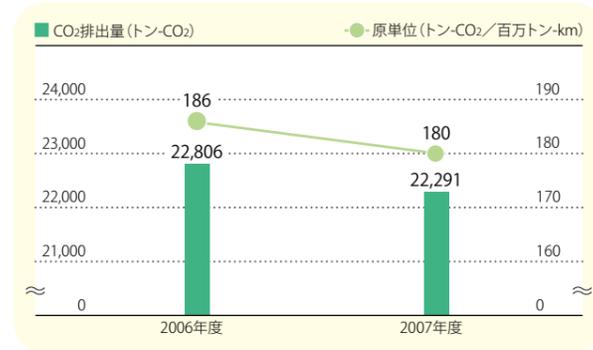
物流におけるCO₂排出削減

——ニチレイフーズの取り組み

(株)ニチレイフーズは、荷主として省エネルギー法で定められた基準*を超える自社商品輸配送を委託しており、重点課題の一つに商品輸配送時のCO₂排出削減を掲げ積極的に取り組んでいます。

ニチレイフーズの商品輸送におけるCO₂排出量

*年間輸送量3000万トンキロ以上



モーダルシフトと配送共同化の推進

(株)ニチレイフーズでは、鉄道・船舶へのモーダルシフトの推進と配送の共同化を進め、輸送トンキロ当たりのCO₂排出量の削減に取り組んでいます。2007年度は、約750トンのCO₂排出削減効果を実現しました。

輸送トンキロとCO₂排出削減効果



CO₂削減効果: 対策を実施しなかった場合に排出が想定される量

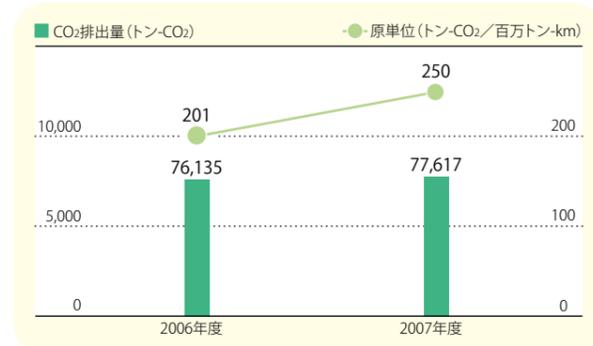
また、2007年から実施した四国地区における共同配送では、3社合計で約28%のCO₂排出削減効果が出ています。

物流におけるCO₂排出削減

——ニチレイロジグループの取り組み

ニチレイロジグループは、「食品物流をいかに効率化するか」ということを最も重要な責任として認識し、物流提案業務を通じて、コスト削減とともにCO₂排出削減に取り組んでいます。2007年度は、中国製冷凍餃子農薬混入事件が輸配送事業にも影響し、輸送量(トンキロ)当たりの排出量は増加しました。

ニチレイロジグループ受託物流に伴うCO₂排出量



*物流共同化などを進めることにより新規受託に結びつくこともあるため、活動により総量が増加する場合もある。

協会運送会社のグリーン経営認証取得の拡大

(株)ロジスティクス・ネットワークでは、協会運送会社のグリーン経営認証取得の拡大に向け、エコドライブ講習会および認証取得に向けた研修会を各地域で開催しています。

安全運転・省燃費運転などに関する講習のほか、実際にコースを試走して省燃費運転を体感してもらう取り組みを通じて、運送事業のレベルアップをめざしています。また、優良ドライバーに対する表彰制度も実施しています。



講習の様子

環境に配慮した商品・サービスの提供

容器包装における環境配慮

——ニチレイフーズの取り組み

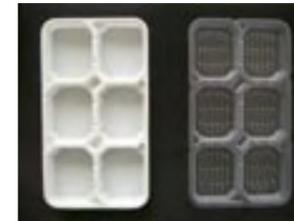
使用容器包装重量の削減

容器包装の大きさの適正化、トレイの不使用、より軽量の素材の採用など、容器包装重量の削減に継続的に取り組んでいます。

「ミニハンバーグ」では、トレイをより軽量のプラスチック素材へ変更し、トレイ重量を14%削減し、プラスチック使用量を12トン削減しました。



「ミニハンバーグ」



従来のトレイ(左)/軽量化したトレイ(右)

脱アルミ蒸着、紙トレイの採用

冷凍食品の包装に使われるフィルムには、ポリプロピレンなどのプラスチック素材にアルミを蒸着した複合素材のものがあります。ニチレイフーズでは、よりリサイクルしやすいようにアルミ蒸着をしないプラスチック素材への切り替えを行っています。切り替える際には、品質テストを実施し、品質に問題のないことを確認しています。

またグルタン商品には、従来プラスチックトレイを使用していましたが、2007年度に販売を開始した「蔵王山麓グラタン」「蔵王山麓ドリア」では紙トレイを採用しました。



脱アルミ蒸着パッケージ



紙トレイに入ったグラタン商品

環境に配慮した商品の調達・提供

——ニチレイフレッシュの取り組み

薬剤を使用しないFA (Free from Antibiotics) 商品の提供

食品を安定してお客様にお届けしていくためには、持続的な漁獲や生産が不可欠です。ニチレイフレッシュは「鮮度」「おいしさ」「安全」「安心」「健康」とともに「環境にやさしい」をキーワードに、「FA(全育成過程を通じて、抗生物質・合成抗菌剤を投与せず、養殖・飼育した水産・畜産素材で安全性はもちろんのこと、周辺環境への影響低減などにも寄与しています)」というコンセプトのもと、新しい食材の開発・調達に取り組んでいます。



FAロゴマーク

●畜産品:FAチキン

ストレスのない最適な環境で、自然治癒力を高めることにより、病気予防のためのワクチンのみを接種し、抗生物質、合成抗菌剤を使用しないチキンの飼育方法を国内の生産者とともに確立しました。さらに、この飼育方法をブラジル、中国、タイなどの生産者とともに実践し、取り組みの拡大を図っています。

●水産品:FAシュリンプ

サウジアラビアの紅海沿岸では、えびへのストレスや長期的な池への負担を考慮し、面積当たりの養殖尾数を少なくし、養殖・加工の過程において抗生物質・合成抗菌剤を使用しない取り組みを行っています。

●フェロー産養殖鮭のFA化への取り組み

フェロー諸島(デンマーク領)では、抗生物質・合成抗菌剤を使用しない鮭の養殖を推進していますが、2007年度からFA化に向けた取り組みを開始しました。当社のFA基準を満たす生産プロセスの確立に努めています。

詳しくはホームページをご覧ください。
<http://www.nichirei.co.jp/fresh/kankyuu/index.html>

そのほかの環境活動

化学物質管理

PCBの管理

PCB(ポリ塩化ビフェニール)は、変圧器の絶縁油などに使用されてきましたが、1970年代に毒性が明確になったことで使用が禁止され、PCB使用機器も、法に定められた基準に従って保管、届け出が必要になりました。現在、国が管理する全国5カ所のPCB処理施設の稼働が始まり、処理施設の操業計画に基づき、順次処理が行われています。

ニチレイグループでは、2007年度にニチレイロジグループの保有機器24基が処理されました。

PRTR対象物質の管理

2007年度はPRTR法*届出対象物質(取扱量1トン以上)はありませんでした。今後も化学物質の適正管理を継続します。

*PRTR法:人の健康や動植物の生息、生育に支障を及ぼす可能性のある化学物質が、どのような発生源から、どれくらい環境中に排出されたかなどのデータを集計し、公表する仕組みについて定めた法律

フロンの使用・管理

フロンは、オゾン層破壊の原因物質といわれ、オゾン層破壊係数の高いフロンから順次、生産全廃や管理の規制が行われてきました。

ニチレイグループでは、食品工場や物流センターの冷凍設備の冷媒としてフロンを使用しています。冷媒は、密閉された冷却設備の中で循環していますが、設備管理を適切に行うことで漏れの発生を防ぐとともに、設備の大規模修繕時には法に従った回収などを行っています。

一方、フロンが地球温暖化の原因物質であることも課題となってきました。地球温暖化には冷凍設備の使用電力量も関係するため、省エネルギー性能にも配慮し、新規設備の冷媒選定を進めています。

アスベストへの対応

2005年度の調査において、屋根裏への吹付けなど、飛散の可能性のある状態で発見されたアスベストは、除去などの処置を実施しました。また、事業所の閉鎖などにより解体を行う際には、再調査のうえ、アスベストを含む建材がある場合は、法令を遵守し適切な処置を実施しています。

土壌汚染への対応

土地の売却・購入や賃貸時には適切な情報開示を実施するとともに、必要に応じて土壌汚染状況の調査および適切な対応を実施しています。

2007年度は、(株)ニチレイ・ロジスティクス北海道札幌物流センターおよび(株)ニチレイ・ロジスティクス九州福岡市場事業所の跡地について調査を実施しました。また、新たに(株)ニチレイフーズの子会社となった(株)キューレイについても、調査および対応の実施を確認しています。

水域・大気への排出抑制

水域への排出

食品工場で使用した水は、食品系の有機物や洗剤、殺菌剤などを含んだ排水となりますが、処理設備で浄化し、法令で定められた排出基準を遵守したうえで工場外に排出しています。

大気への排出

食品工場では、ボイラーなどで重油やガスを燃焼する際にNOx(窒素酸化物)やSOx(硫黄酸化物)が発生します。工場では、適正な設備管理により、法令で定められた排出基準を遵守し、総排出量削減を図っています。

ニチレイロジグループでは、輸配送車両についてエコドライブの推進、適正な車両整備、排ガス規制適合車両への切り替えなどを行うことでNOxやPM(粒子状物質)の排出低減を進めています。

オフィス・営業活動における取り組み

ニチレイグループでは、オフィスにおいてもクールビズや消灯励行などの省エネルギー活動、コピー用紙の使用削減や分別・リサイクルなどの廃棄物削減といった環境負荷低減に取り組んでいます。このほか、CO2の排出削減に向けて営業車のハイブリッド車への変更、エコドライブ研修の実施、「マイはしエコ運動」などを実施しています。

さらに、従業員一人ひとりが環境保全について考えるきっかけとなるよう、環境に関連した社会貢献活動への参加の呼びかけなども行っています。

蛍光灯を省エネルギータイプに切り替え

ニチレイ東銀座ビルでは、2008年3月に役員フロア・会議室フロアの蛍光灯を、省エネルギータイプに切り替えたほか、ダウンライトを蛍光灯に変更しました。これにより、役員フロア・会議室フロアの電灯の電力使用量を約30%削減しました。

「マイはしエコ運動」

(株)ニチレイフーズ関東信越支社宇都宮営業所では、2008年4月、お取引先様の展示会開催時に、「マイはしエコ運動」を実施しました。これは試食の際に使い捨てられる割りばしをやめ、持ち帰りが可能な「マイはし」に替えようという運動です。ニチレイフーズのロゴを入れた「マイはし」約600本を展示会来場者に配布しました。この運動はほかの事業所にも広がっていきます。



ニチレイフーズのロゴ入り「マイはし」をお取引先様の展示会場で配布

「東京グリーンシップアクション」への参加

東京都庁、NPO法人、企業の3者が協働して、東京都内の保全地域の自然保護活動を行っているのが「東京グリーンシップアクション」です。

ニチレイプロサーヴは、この活動の一環として、2007年7月東久留米市の野火止用水歴史環境保全地域の雑木林の管理保全のため、下草刈りに参加しました。人の背丈ほどもあった下草がきれいに刈られた後は、自然保護活動の「気持ち良さ」を参加者全員で体感することができました。一方、従業員家族で参加した子供たちは、カブト虫を捕まえたり、木や草の名前を教わるなど、NPO法人の自然体験プログラムを楽しみました。今後もこの活動を継続していきます。



「東京グリーンシップアクション」に参加

PETボトルキャップを回収し、ワクチンに換える運動に協力

ニチレイロジグループの(株)キョクレイ大黒物流センターでは、PETボトルのキャップを集めてワクチンに換えるNPO法人の運動に協力しています。この活動を通じて、資源(キャップ)のリサイクルとともに、発展途上国の子供たちの健康に寄与することができます。社内で回収したキャップをNPO法人に送付した後、NPO法人がプラスチック原材料として売却します。キャップ400個が20円に相当し、1人分のワクチンを購入することができます。2008年2月から5月までの間で2,080個のキャップを寄付しました。今後もこの活動を継続していきます。

ニチレイ東銀座ビル、スコレ研修センター、ニチレイ天満橋ビルでも、同様の運動に協力しています。



ニチレイロジグループのキョクレイ大黒物流センターでは回収したキャップをNPOに寄付。リサイクルとワクチン購入に寄与している

ニチレイらしい社会貢献の推進

2007年度社会貢献の方針と活動内容

ニチレイグループでは、社会貢献活動に関する情報共有・推進を目的として、2006年4月に社会貢献分科会を発足させました。活動は各事業会社と労働組合の代表者および事務局である(株)ニチレイ人事総務部により運営されています。2007年度からは、「ニチレイふれあい基金[※]」の理事会業務を兼務する体制に移行し、グループ共通で実施する社会貢献活動の内容検討から寄付先の決定まで一括して社会貢献分科会で扱っています。また、各事業会社ごとにも社会貢献推進担当が選任され、活動しています。

2007年度の社会貢献分科会では、「ニチレイふれあい基金」の寄付先団体の活動内容報告を協議・検討し、また、日本ユネスコ協会連盟の世界寺子屋運動への協力についても検討を行いました。

ニチレイグループは、NPO法人「難病児の夢と親子のハートフル・ホリデー IN TOKYO」の活動趣旨(難病児の夢の実現と家族の楽しい思い出づくりの支援)に賛同し、東京都大田区にあるスコレ雪ヶ谷研修センターを宿泊施設として貸与しています。

[※]「ニチレイふれあい基金」:当基金は、1992年に設立され、従業員の賛同金と会社の寄付を基に、社会福祉活動の支援や自然保護・環境保全・文化芸術活動への援助などを行っています。

ニチレイグループ社会貢献基本方針

わたしたちニチレイグループは、企業市民として広く社会から信頼される企業でありたいと考えます。

わたしたちは、素材を見きわめ、おいしさと健康を創り出し、安全で効率的な物流を通じて社会に貢献します。さらに、事業活動以外の分野においても自らの誠意と共感と使命感に基づき、社会貢献活動を行います。

わたしたちは、この考え方にに基づき、食や物流に関する教育、地域貢献、環境保護、災害支援、スポーツ支援を中心に、積極的な社会貢献活動に取り組みます。

食や物流に関する教育

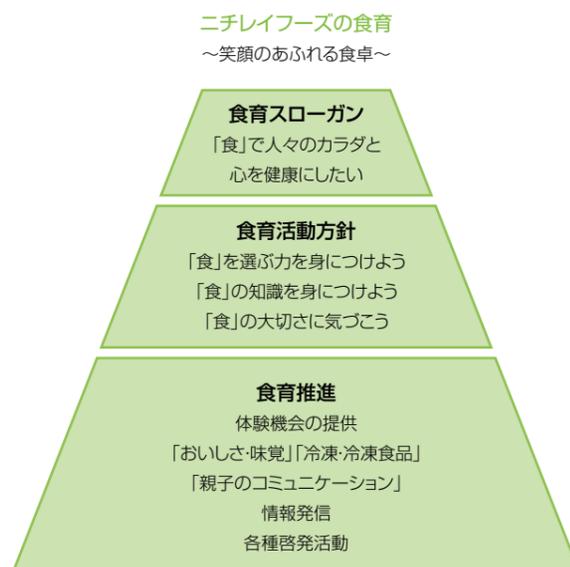
食育活動

食育基本法では、食育を、生きるうえでの基本であって、知育、徳育および体育の基礎となるべきものと位置づけるとともに、さまざまな経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てることとしています。

ニチレイグループは「くらしを見つめ、人々に心の満足を提供する」企業理念のもと、「食」に携わる事業者として、安全・安心な商品をお届けすることはもとより、「食」の楽しさ・すばらしさを広く生活者の皆様と一緒に学び、考え、実践する食育活動に積極的に取り組んでいます。

特に、ニチレイフーズでは、「笑顔のあふれる食卓」をめざして「食で人々のカラダと心を健康にしたい」をスローガンに、食に関するさまざまな体験機会を皆様に提供することを中心とした食育活動に力を入れています。

ニチレイフーズの食育方針



「食育 出張授業」の実施

ニチレイフーズは、2008年2月12日、仙台市大野田幼稚園にて「出張授業」を実施しました。

ニチレイフーズがまとめたお弁当に関する調査結果の発表と説明、親子・夫婦間のお弁当コミュニケーションについて生活者の皆様や園長先生とのディスカッションのほか、味覚の科学に関する解説を行い、参加者の皆様に実際に味覚の仕組みを体験していただきました。



大野田幼稚園での出張授業

「出張授業」参加者の感想

- 子供の未来を考え、いろいろなものを楽しく食べさせてあげようと思いました。(女性/38歳)
- あらためて食べることは育ち盛りの子供には大切なことなんだと痛感しました。(女性/34歳)
- 少しずつ手づくり弁当の回数を増やして子供に思いを伝えたい。(女性/37歳)

TOPICS

「地域に根ざした食育コンクール」特別賞 審査委員会奨励賞受賞

ニチレイフーズは、これまで全国の工場や支社で実施してきた食育活動を評価され、「地域に根ざした食育コンクール」(農林水産省・提唱、地域に根ざした食育推進協議会、(社)農山漁村文化協会・主催)にて、特別賞 審査委員会奨励賞を受賞しました。

2008年1月26日、東京国際フォーラムで行われた表彰式、および発表展示会では、①原料



冷凍食品工場見学

生産農家での収穫体験や野菜の育つ過程をブログ形式で紹介した「はぐねっと」の活動、②冷凍食品工場見学や冷凍倉庫体験を中心とした活動、③料理教室や食品の冷凍実験を中心とした活動、④工場での生製品の試食や味覚の体験を中心とした活動、⑤食品を味わい、味とおいの関係やおいしさ・食品の特徴を言葉で表現する活動について発表しました。



味覚体験の様子

物流に関する教育

人々の生活と深い関わりをもつ食品物流の認知度向上に向けての活動を進めています。その一環として、小・中・高校生の社会科見学や教育関係者への施設見学機会の提供、各種大学での寄付講座開講など、積極的な社会貢献活動を展開しています。

社会科見学の実施

(株)ロジスティクス・ネットワーク入間物流センターでは、入間市の要請により地域の小学3年生が実施する校外学習に協力し、会社訪問の受け入れを行っています。



狭山小学校の生徒の皆さん

(株)ニチレイ・ロジスティクス東海は、南陽中学校(名古屋市港区)の総合学習において「環境問題に積極的に取り組んでいる企業」として選ばれ、中学生の会社訪問を受けました。



南陽中学校からの会社訪問



大学への寄付講座

2007年12月13日、横浜国立大学経営学部にて「食品物流」をテーマにした講義を行いました。



横浜国立大学での講義風景

地域社会貢献

フードバンクへの寄付

ニチレイフーズはNPO法人セカンドハーベストジャパン※によるフードバンク活動に賛同し、日本企業としていち早く名乗りをあげ2005年7月より参画しています。輸入時に外箱が変形した商品など品質に問題のない冷凍食品を無償で提供、ニチレイロジグループの協力により低温輸送でセカンドハーベストジャパンの認定する各施設に直接お届けしています。

この取り組みは、現在では約190社以上の企業が協賛するまでに広がっています。



協賛企業による会議の様子

※「セカンドハーベストジャパン」：日本初のフードバンク。2002年7月に法人格を取得。安全性が保証された食料を、生活困窮者に供給する支援活動を行っています。

環境保全活動

いのち 生命の森プロジェクト

インドネシア・タラカン市が実施するマングローブ林拡大プロジェクト(生命の森プロジェクト)は、マングローブ林に生息する動物や環境の保護などを目的としたものです。

ニチレイフレッシュは、10年来タラカン市のパッカーよりえびの買い付けを行っていることから、地域貢献の一環として、また食材調達における持続可能性確保への取り組みとして、このプロジェクトの活動を支援しています。

現在まで植林したマングローブの数は約5万本。インドネシアWWF※・タラカン市・ニチレイフレッシュが共同で設立した基金を通じ、2009年にはその数を約10万本へ拡大する予定です。

※「WWF」：1961年に、絶滅の危機にある野生生物の保護を目的としてスイスで設立され、現在は地球全体の自然環境の保全に幅広く取り組む世界最大の自然保護NGO(非政府組織)です。



マングローブ林の自然環境を保護することを目的とした「生命の森プロジェクト」

ニチレイフーズ白石工場の環境授業

(株)ニチレイフーズ白石工場は、「白石蔵王エコフォーラム」(白石蔵王地区の企業8社で構成)に2007年5月より参加し、環境活動や地域社会貢献活動を実施しています。

その活動の一環として、2007年度は合計3回の環境出前授業を行いました。写真は、2007年10月3日、地元の白石第一小学校、4年生84名を対象に、3名の従業員が行った地球温暖化の授業風景です。

40分間の授業の間、子供たちは真剣に耳を傾け、たくさんの質問をしてくれました。今後もこの活動を継続していきます。



(株)ニチレイフーズ白石工場の環境授業風景

スポーツへの支援

ニチレイグループは、「食」とともに健康を支える大きな要素であるスポーツを通じて「健康」を支援するさまざまな活動に積極的に取り組んでいます。

<http://www.nichirei.co.jp/sports/index.html>

ステークホルダーとのコミュニケーション

お客様とのコミュニケーション

コミュニケーション能力の向上

1974年にお客様の声を商品やサービスの改善につなげるために設置された「お客様相談センター」は、「もう一人の家族であるお客様との対話を通じて、安全・安心をお届けする体制の強化」をミッションとしています。お客様の声を貴重な経営資源として捉え、ご指摘やお問い合わせの内容を分析、発信することで、業務改善に役立てています。

2007年度は、下記の品質方針のもと、お客様とのコミュニケーション能力の向上と社内連携の強化に努めました。

2007年度お客様対応の品質方針

お客様満足度(CS)向上システムの確立とリスクマネジメント(RM)の実践

- ①お客様応対力の強化(応対品質の向上)
- ②お客様情報の社内共有化と提案活動の推進(製品品質の向上)
- ③リスクマネジメントの推進(経営品質の向上)
- ④全社的CS教育の推進(CSの向上)

全社的CS教育の推進

CS(Customer Satisfaction: お客様満足度)の最前線部署として「お客様相談センターCS実践研修プログラム」を構築。全社各部門の管理職クラスの従業員を対象に、CS教育研修の場を提供、推進し、今後は役員レベルの参加まで拡大していく予定です。



CS実践研修の様子

●研修プログラム(半日ショートコース)

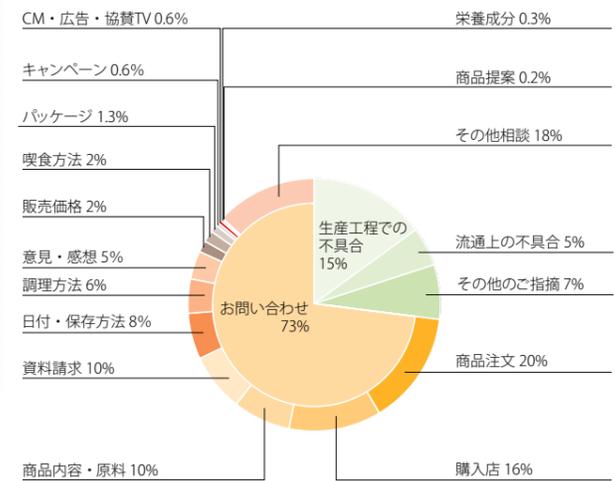
- A 講義1:CS&RMの重要性について
講義2:クレーム対応の重要性と注意点について
- B 実践1:お客様相談センターに入室し、お客様との電話対応のモニタリング
実践2:「りぼんシステム」に搭載されている情報統計分析システムの解説と活用について

CS研究会の発足

温度に対してデリケートな冷凍食品は、流通過程で急激な温度変化を受けると、商品が本来持つおいしさや商品特長が損なわれてしまいます。ニチレイフーズは、(社)日本冷凍食品協会の支援のもと、同業8社とともに、流通時の品質劣化の防止、クレーム削減を目的とした「CS研究会」を発足。各社に寄せられるクレームについての情報共有・分析を行うほか、流通業者様向けに夏場の温度管理の要請を行うなど、さまざまな活動に取り組んでいます。

※07年度発行：消費者向けパンフ：「冷凍食品だからOK」
小売店向けパンフ：「消費者から喜ばれる店づくり」、「夏場の温度管理のポスター」、「要望書」

2007年度お問い合わせ内容の内訳



お客様の声を受けたパッケージ表示改訂事例

パッケージを通して、独自の安全への取り組みと徹底した管理体制を生活者へ発信しています。



お客様の声を反映したパッケージ表示

株主・投資家の皆様とのコミュニケーション

株主総会と株主懇親試食会の開催

(株)ニチレイでは、一人でも多くの株主の皆様へ、株主総会にご出席いただくために、株主総会開催日の分散化に対応して早期開催に努めています。2007年度は2007年6月26日に株主総会を開催し、532名の株主様にご出席いただきました。

また株主総会終了後には、株主の皆様とのコミュニケーションを深める機会として、2000年度より「株主懇親試食会」を実施し、当社商品を試食していただきながら、経営方針の説明や新商品の感想などをお聞きしています。株主の皆様からもご好評を得ており、2007年度は約500名の方々にご参加いただきました。

今後も株主の皆様との対話を重視し、多くの方々に気軽にご参加いただける株主総会および株主懇親試食会を実施していきます。

株主優待制度の導入

当社は2003年度から株主優待制度を導入しています。当社グループへのご理解を深めていただき、永く「ニチレイファン」となっていただくため、毎年7月にニチレイフーズ商品の詰め合わせをお送りしています。

2007年度は、「上等洋食シリーズ」などのレトルト食品詰め合わせと「アセロラシリーズ」を23,000名の皆様にお届けしました。

今後も株主の皆様のご期待に応えていきます。



株主の皆様にお届けする優待商品(2008年)

平成19年度上場会社表彰(ディスクロージャー表彰)の受賞

上場会社のディスクロージャーの充実を促進する東京証券取引所では、その一環として決算短信等開示資料の内容や個人株主の増加状況などの項目を審査し、毎年優

れた実績を残した上場企業を表彰しています。

2007年度、(株)ニチレイはこの表彰制度において2000社を超える上場企業の中から選定され「ディスクロージャー表彰」を受けました。決算短信での経営成績の分析や次期見通しの記載が充実し説得力をもっていること、事業報告書において中期経営計画の説明が丁寧に行われていることなどが評価されました。(株)ニチレイとしては、2000年に引き続き2度目のディスクロージャー表彰になります。

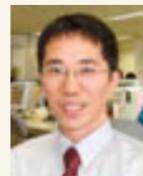


(株)東京証券取引所 斉藤社長よりディスクロージャー表彰を受ける村井社長

VOICE

佐藤 康範

(株)ニチレイプロサーヴ 財務サポート部 経理マネジメントグループマネジャー



株主・投資家の皆様へ有用でわかりやすい情報の提供を心がけ、業績予想の記載内容を充実させることに最も力を入れております。今後も、企業経営の透明性の向上を図り、「正確・迅速・公平」な会社情報の開示に努めていきます。

投資家向けIR活動の充実

(株)ニチレイは、投資家の皆様とのコミュニケーションをめざして、定期的に経営トップが直接経営戦略やその進捗状況をお伝えし、疑問に答える機会を数多く設けています。

また、海外投資家向け活動についても積極的に取り組みました。決算資料や説明会資料などのWeb上でのタイムリーな公開や投資家訪問など、海外機関投資家との直接コミュニケーションを実施しました。

お取引先様とのコミュニケーション

「ニチレイフレッシュこだわりセミナー2007」の開催

ニチレイフレッシュは、お客様とともに「食」について考える場として、また資源保護や環境との共生に配慮した「こだわり素材」の開発に向けた取り組みをご紹介します場として「こだわりセミナー」を毎年開催しています。

2007年度のテーマは、「地球のカルテと処方箋〜いま私たちにできること〜」。地球温暖化の影響など、環境に対する関心が従来にも増して高まっているなかで、地球上で起きているさまざまな環境問題や食の問題について認識を深め、環境への配慮や食の安全保障、さらには持続可能性の視点からわれわれ地球市民として何をすべきか、ご来場のお客様と一緒に考えることができました。

基調講演に引き続いて行われた当社からのプレゼンテーションでは、こだわり素材の展示やオリジナルメニューをご試食いただき、好評を得ました。



「こだわり素材」開発への取り組みをご紹介します「こだわりセミナー」

「ニチレイトップセミナー」の開催

ニチレイフーズ、ニチレイフレッシュは、お取引先様との情報共有を目的としたセミナーを開催しています。

2007年度は、トップマネジメントに役立つテーマ講演・トレンド情報提供そして事業概要のご紹介を主体に構成しました。

ニチレイフーズ事業概要紹介では、冷凍食品が担ってきた歴史的な意義を振り返り、今求められる食品企業としての方向性について「品質と挑戦」をテーマとしました。また、ニ

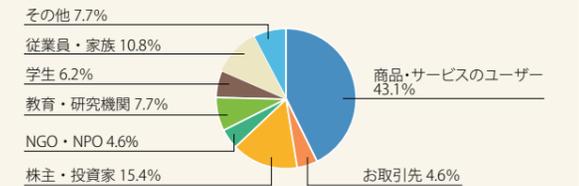
チレイフレッシュにおいては自然の力を最大限に活用した、こだわり素材の開発事例を中心にご報告いたしました。

確かな素材、ゆるぎない品質、お客様のご要望をつかむ情報力を磨き続ける当社の姿勢をご理解いただく場として今後も活用し、お取引先様との情報交換を進めます。

社会環境報告書2007のアンケート結果

2007年6月に発行した「社会環境報告書2007」に対して、さまざまなご意見・ご感想をいただきました。2008年5月末現在で65名の方からアンケート回答をいただくことができました。

2007年度はWebサイトでご意見・ご感想を簡単に送信いただける仕組みを導入しています。



社会環境報告書2007への主なご意見・ご感想

- CSR活動についてのご意見
 - 社会貢献分科会などを通じ、社会が必要とする優先分野に軸足を置いた、ニチレイらしい活動を展開されたら素晴らしいと思います。(NGO)
 - ゼロエミッションに向けてさらなる努力が必要です。(商品・サービスのユーザー)
 - 一消費者として、商品そのものの魅力はもちろんですが、社会貢献に熱心な会社の商品をできるだけ選びたいと思っています。(商品・サービスのユーザー)
- 社会環境報告書の編集についてのご意見
 - 文字の小さい箇所は読みづらく感じました。(株主・投資家)
 - 文字をもっと大きく、要旨をまとめ、ページ数を少なくしてはいかがでしょうか。(株主・投資家)
 - 食育の記事は説明が少なすぎて目的もあまり伝わってきません。もっと詳しく載せてください。(お取引先)

ステークホルダーの皆様からのご意見を受け、社会環境報告書2008は掲載項目を絞り、詳細事例はWebに掲載する等読みやすさの改善を行いました。

今後もお客様をはじめとするさまざまなステークホルダーの皆様へ耳を傾け、CSR活動や社会環境報告書の改善に活かしたいと考えています。

サステナブル経営格付け

ニチレイグループは、外部機関による格付評価の結果を真摯に受け止め、今後の改善に役立てていきます。

所見

1. 総合評価

(株)ニチレイの過去3年にわたる格付参加の後をうけ、ニチレイグループの中核的事業会社である貴社(株)ニチレイフーズの格付評価は2回目となります。今回は、貴社が、持株会社に移行した(株)ニチレイの環境経営における文化的資産をいかにスムーズに継承しているか、に注目させていただきました。また評価バウンダリーは、引き続き「全連結」で行いました。

結果としては、貴社は、学会が求めるサステナブル経営に向かって着実に進んでいると評価されました。一部に昨年より評点の低くなっている項目がありますが、これは社会が企業経営に求める水準そのもの上昇を反映したものと云えます。貴社の水準が低下したということではなく、より高い段階に達したために新たな地平を望むこととなり、更なる課題が見えたものとお考えください。

総合的には、経営分野、環境分野、社会分野とも大きな欠点は認められませんが、各分野に共通した特徴的な改善すべき事項が発生しております。持株会社がグループ全体を見通してマネジメントする分野と、貴社が単独でマネジメントすべき分野との間に空隙が生じ、一部のリスク管理が宙に浮く恐れがあること。各部門・生産拠点の独自性・創意が尊重され効果を上げている反面、水平的に見通したリスク評価がしにくいことなどが挙げられます。

2. 優れている項目とその理由

食品メーカーとして常に「お客様第一、安全第一、品質第一」を考える姿勢、そしてその根底にお客様を「もう一人の家族」とする判断基準が根付い

ていることは、社会・環境分野のサステナビリティを確立して行く上で貴社の大きな強みです。「食の安全」という本業の中核を突き詰めていく過程で、汚染防止や消費者への責任履行と言うサステナブル経営のコア・エレメントのひとつひとつが必然的に追求されることになるからです。サステナブル経営格付の評価項目に「お客様第一」の観点から光を当て、顧客満足向上の視点で自己評価を行っていただければ、必ずや更なる価値創造に結びつくものと思います。

環境分野の「生物多様性の保全」においても新たな認識の土壌が育っており、本格的な経営戦略に生かされることが望まれます。

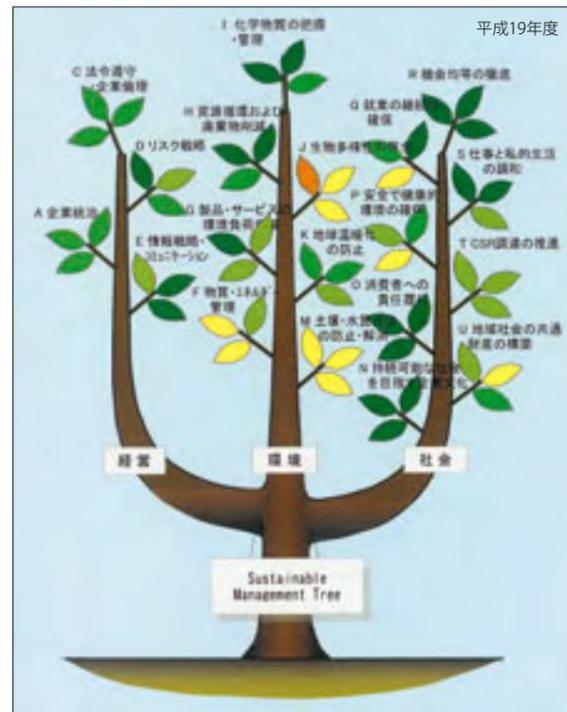
3. 改善を要する項目とその理由

危機管理面では、事故対応的な具体的問題解決のシステム(クライシスマネジメント)は非常に完成されているにもかかわらず、未知のリスクに対する体制(リスクマネジメント)では検討すべき課題が多いと思われます。会社としての体質の良さが逆に災いして、性悪説によるリスク管理体制が育ち難くなっている可能性があり、本経営診断をはじめとする異文化との接触を積極的に経営に生かされることをお勧めします。

4. その他特記事項等

経営トップが食文化に対する確固たる見識を持っているだけでなく、それが広く社員に浸透し、共通の基盤として、矜持として息づいている様に拝見しました。これをサステナブル経営の背骨となる素地がすでに形成されていると見て、グループの中核事業会社として更なる企業価値を發揮されることを期待します。

2008年4月18日
NPO法人 環境経営学会
副会長 木保 信行



「サステナブル経営格付け」について
NPO法人「環境経営格付機構」による、企業の持続可能(サステナブル)な取り組みを総合的に評価する格付評価で、6回目となる2007年度は7社が参加しました。評価内容は「経営」「環境」「社会」の計19項目に対して、それぞれ戦略・仕組・成果の3つの視点で合計162設問から評価されます。評価結果は図のように、1本の木で表され、「経営」「環境」「社会」を示す3つの幹と葉の色で、企業の取り組みの状況を一望することができます。

グループ会社一覧

2008年6月1日現在

国内	海外	
株式会社ニチレイ [持株会社] 不動産事業 (株)ニューハウジング (有)リバーサイド・ファンディング・コープ	(株)ニチレイフラワー (株)ニチレイガーデン (株)ニチレイアウラ 他1社 関連会社5社	Tengu Company, Inc. 関連会社1社
株式会社ニチレイフーズ [加工食品事業] 千葉畜産工業(株) (株)ニチレイ・アイス (株)中冷 (株)スマイルダイナー (株)ニチレイフーズダイレクト (株)ハートあんどはあとライフサポート 関連会社2社	Nichirei do Brasil Agricola Ltda. Nichirei do Brasil Representacoes Ltda. 山東日冷食品有限公司 Surapon Nichirei Foods Co., Ltd. Nichirei Europe S.A. Nichirei Foods U.S.A., Inc. 日冷食品貿易(上海)有限公司 Nichirei Australia Pty. Ltd. 関連会社1社	
株式会社ニチレイフレッシュ [水産・畜産事業] (株)まるいち加工 (株)ニチレイティーピーセンター (株)ニチレイフレッシュファーム 関連会社1社	Amazonas Industrias Alimenticias S.A.-AMASA Nichirei Seafoods, Inc. Nichirei U.S.A., LLC	
株式会社ニチレイロジグループ本社 [低温物流事業] [物流ネットワーク事業] (株)ロジスティクス・ネットワーク (株)NKトランス (株)ロジスティクス・プランナー (株)ニチレイロジスタッフ関東 (株)ニチレイロジスタッフ関西 [地域保管事業] (株)ニチレイ・ロジスティクス北海道 (株)ニチレイ・ロジスティクス東北 (株)ニチレイ・ロジスティクス関東 (株)ニチレイ・ロジスティクス東海 (株)ニチレイ・ロジスティクス関西 (株)ニチレイ・ロジスティクス中国 (株)ニチレイ・ロジスティクス四国 (株)ニチレイ・ロジスティクス九州 (株)キョクレイ	三重中央市場冷蔵(株) (株)札幌ニチレイサービス (株)東北ニチレイサービス (株)東京ニチレイサービス (株)名古屋ニチレイサービス (株)大阪ニチレイサービス (株)広島ニチレイサービス (株)四国ニチレイサービス (株)福岡ニチレイサービス (株)鹿児島ニチレイサービス 下関漁港運輸(株) (株)キョクレイオペレーション 照栄サービス(株) 関連会社5社 [その他の事業] (株)ニチレイ・ロジスティクスエンジニアリング	Nichirei Holding Holland B.V. Hiwa Rotterdam Port Cold Stores B.V. Eurofrigo B.V. Eurofrigo Venlo B.V. Thermotrafic Holland B.V. Nichirei Finance Holland B.V. Thermotrafic GmbH Frigo Logistics Sp. z o.o. 上海鮮冷儲運有限公司
株式会社ニチレイバイオサイエンス [バイオサイエンス事業]		
株式会社ニチレイプロサーヴ [シェアードサービス事業]		